

Panasonic®

取扱説明書

工事説明付き

非常リモコン

品番 WR-EC500A



保証書別添付

このたびは、非常リモコンをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- ・取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ・ご使用前に「安全上のご注意」(6~7ページ) を必ずお読みください。
- ・保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

商品概要

本機は、ラック形非常用放送設備（以下、本体）WL-8000A/8500A、WL-8000/8500用の非常リモコン（以下、本機）です。非常放送以外に、緊急地震放送、緊急放送、業務放送が行えます。

※WL-8000/8500に本機を接続した場合は、緊急地震放送の機能は動作しません。

本機は、本体に最大8台接続することができ、増設用操作ユニットWK-EX510/EX520、WR-EX510/EX520を接続して最大340局340回線の放送ができます（局数と本機台数の組み合わせにより、本機側に電源制御ユニットWU-L62、非常電源ユニットWP-570Bの専用電源が必要になります）。

本体に接続した増設用操作ユニットの放送回線をユニット単位で、本機にシフトすることができます。

本機は、壁掛け、卓上、ラックマウントの仕様に対応しています。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）	1冊	「非常放送のしかた」手順書	1枚
保証書	1式		

以下の付属品は、設置工事で使用します。

マイクロホン	1個	ラックアングル取り付けねじ（外歯付M4×8）	…4本
緊急スイッチカバー	1個	ラックマウントねじ（M5×12、リブ付き）	…4本
型紙	1枚	ゴム足	…4個
記名シート	1式	束線バンド	…2本
ラベル	1枚	グロメット	…1個
ラックアングル	2個	パネルストッパー（製品に添付）	…1個

免責について

この商品は、感知器などからの信号を受信した場合に非常放送を放送する設備であり、この商品単独で避難誘導するものではありません。

弊社は如何なる場合にも以下に関して、一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意、誤使用や不注意による損害、または本商品の破損等
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、放送ができないなどによる不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の点検が適切に行われていない結果、発生した損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

記号のみかた



: 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



: 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに

はじめに

商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	3
著作権について	3
記号のみかた	3
安全上のご注意	6
使用上のお願い	8
各部のなまえと働き	9

操作

非常放送のしくみ	14
概要	14
非常放送のしかた (1) 感知器起動	18
非常放送のしかた (2) 感知器起動	20
非常放送のしかた (3) 発信機・非常電話起動 (発報)	22
非常放送のしかた (4) 発信機・非常電話起動 (火災)	24
非常放送のしかた (5) 手動起動 (発報)	26
非常放送のしかた (6) 手動起動 (火災)	28
緊急地震放送について	30
■緊急地震放送とは	30
■緊急地震放送の動作	30
■緊急地震放送を行っているときの非常放送について	31
緊急放送のしかた	32
緊急放送とは	32
緊急放送スイッチによる放送	33
業務放送のしかた	34
非常リモコンからの放送	34
内蔵メッセージの放送	35
汎用出力スイッチ機能について	36
モニター音量の調整	37
相互通話のしかた	38
日常点検	39
電源の点検	39

設置・工事

必要なとき

工事説明	41
設置上のご注意	41
設置のしかた	43
壁面に取り付ける場合	43
卓上に置く場合	45
本体マイクロホンの接続	45
パネルストッパーの使用について	46
ラックに取り付ける場合	47
表示カードの記入	48
接続のしかた	49
ラック形非常用放送設備との接続	50
増設用操作ユニットの接続	52
ライン入力の接続	53
外部電源の接続	55
機器設定	57
機器内部の設定	57
機器内部の調整	60
設置時の点検	61
接続点検	61
電源投入と点検	61
設定後の初期動作確認	62
動作確認	63
点検モードによる運用点検	65
自動点検について	66
電源の点検	68
エラー表示について	69
用語の説明	70
故障かな!?	71
仕様	72
保証とアフターサービス	74

安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店に依頼してください。

定期的に点検をする



非常時に適切な避難誘導が行えない原因になります。

- 点検は、販売店や保守契約店に依頼してください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因になります。

分解禁止

異物を入れない



水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因になります。

禁 止

- 直ちに販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがする、そのまま使用すると火災の原因になります。

- 直ちに販売店にご連絡ください。

周囲にものを置かない



非常時の操作を妨げる原因になります。

禁 止

- 指定範囲は常に整理、整頓してください。

⚠ 警告

質量に耐える取り付けをする



取付の場所や方法が不適切な場合、落下(や転倒)などだけがの原因になります。

- 販売店に依頼してください。

不安定な場所に置かない



禁 止

落下などだけがの原因になります。

機器の上に水などの入った容器を置かない



水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

水ぬれ禁止

- 直ちに電源を切り、販売店にご連絡ください。

電源は非常用放送設備に接続する



指定外の接続をした場合、非常に適切な避難誘導が行えない原因になります。

決められたヒューズを使う



規定以外のヒューズを使うと、火災の原因になります。

雷のときは工事、配線をしない



火災や感電の原因になります。

禁 止

使用上のお願い

はじめに

日常点検をしてください。

万一の際（非常時）にも機器が正常に動作するよう日常点検を行ってください。

本機に専用の電源を持たせたときは、非常電源の点検を必ず行ってください。

- ・蓄電池に異常がある場合、ユニットに内蔵している蓄電池すべてを交換してください。交換は販売店または、保守契約店に依頼してください。
- ・蓄電池の寿命は使用するしないにかかわらず4年間です。これを過ぎると、たとえ点検時に正常電圧が表示されても、交換が必要です。

日常点検で異常がある場合は、ただちに販売店または保守契約店に連絡してください。

操作面の高さは変えないでください。

非常用放送設備の操作面の高さは、床から0.8 m～1.5 m（椅子に座って操作するときは0.6 m～）の範囲内と決まっています。卓上形として使用する場合、特にご注意ください。

「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。

設定された起動方式を確認して非常時、確実に操作できるように「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。設定起動は、表題の下に記載しています。

本機を水滴のかかる場所には置かないでください。

本機の上や周囲に花瓶など水が入った容器を置かないでください。

使用温度範囲は、0 °C～+40 °Cです。

この温度範囲外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因になります。

お手入れのしかた

ケースが汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔かい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。その後、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。ベンジン、シンナーなどでふくと変質したり、塗料がはがれたりすることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

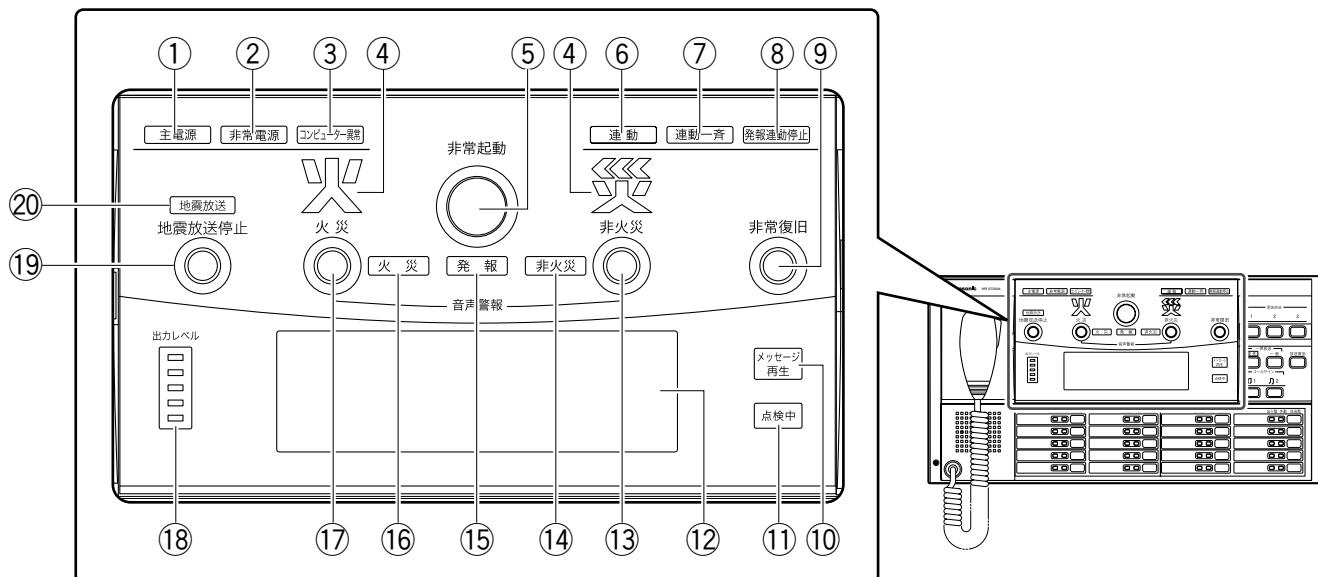


- お手入れは、スイッチに触れないように、注意して行ってください。

スイッチに触れると、非常放送などが作動する場合があります。

- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

各部のなまえと働き



①主電源表示灯 [主電源] (緑色)

点灯：本機に主電源 (DC24 V) が正常に供給されています。

消灯：停電です。

②非常電源表示灯 [非常電源] (緑色／赤色)

緑色：ラック形非常用放送設備（本体）に接続した非常放送用の非常電源ユニットに収納された蓄電池は、正常電圧の範囲内です。

赤色：動作電圧以下です。蓄電池の交換が必要です。販売店または保守契約店に連絡してください。

③コンピューター異常表示灯 [コンピューター異常] (赤色)

点灯：コンピューターに異常があります。販売店または保守契約店に連絡してください。

異常時は放送を停止します。放送を行うときは、マイクドア内のコンピューター制御スイッチを [切] にし、本体マイクで放送します。放送は一斉放送になります。

消灯：正常です。

④火災灯 [火災 (大きな表示灯)] (赤色)

非常起動すると、点滅または点灯します。

点滅：非常起動（火災感知器・発信機・非常電話など）による発報放送中、または発報放送のあと操作待機（火災放送スイッチや非火災放送スイッチを押す）

非常起動したとの操作待機中（火災放送スイッチや非火災放送スイッチを押す）

点灯：火災放送中、または火災放送のとの操作待機中（非常復旧など）

⑤非常起動スイッチ [非常起動]

手動で非常放送するときに押します。

発報放送時または火災音信号（ピーピーピー音）が鳴っているときに押すと、火災放送を放送します。

⑥連動表示灯 [連動] (赤色)

点灯：感知器・発信機などから起動すると、出火階と連動階に非常放送を放送します（設定は書き込みで行います）。

⑦連動一斉表示灯 [連動一斉] (赤色)

点灯：感知器・発信機などから起動すると、全館一斉に非常放送を放送します（設定は書き込みで行います）。

各部のなまえと働き

⑧発報連動停止表示灯【発報連動停止】(赤色)

点灯：感知器から起動すると、本機のモニタースピーカーから火災音信号（ピーピーピー）が鳴ります（設定は書き込みで行います）。発報放送は放送されません。

⑨非常復旧スイッチ【非常復旧】

非常放送を復旧するときに押します。
※感知器が作動している間は非常放送状態は復旧しません。

⑩メッセージ再生表示灯【メッセージ再生】(緑色)

点灯：業務放送や緊急放送で、本体に内蔵された業務用音源やメッセージを再生中です。

⑪点検モード表示灯【点検中】(緑色)

点灯：保守点検などで、点検を実行中です。

⑫液晶画面

非常放送時の操作指示、異常発生時の内容、動作状態などを表示します。



⑬非火災放送スイッチ【非火災】

火災でないことを確認したときに押します。非火災放送を放送します。

⑭非火災放送表示灯【非火災】(緑色)

非火災放送スイッチを押すと点灯します。

点灯：非火災放送中

点滅：非火災放送のあと操作待機

⑮発報放送表示灯【発報】(だいだい色)

点灯：発報放送中

点滅：発報放送のあと操作待機（火災放送スイッチや非火災放送スイッチを押す）

⑯火災放送表示灯【火災】(赤色)

火災放送スイッチを押すと点灯します。

⑰火災放送スイッチ【火災】

火災を確認したときに押します。火災放送を放送します。

⑱出力レベルメーター【出力レベル】

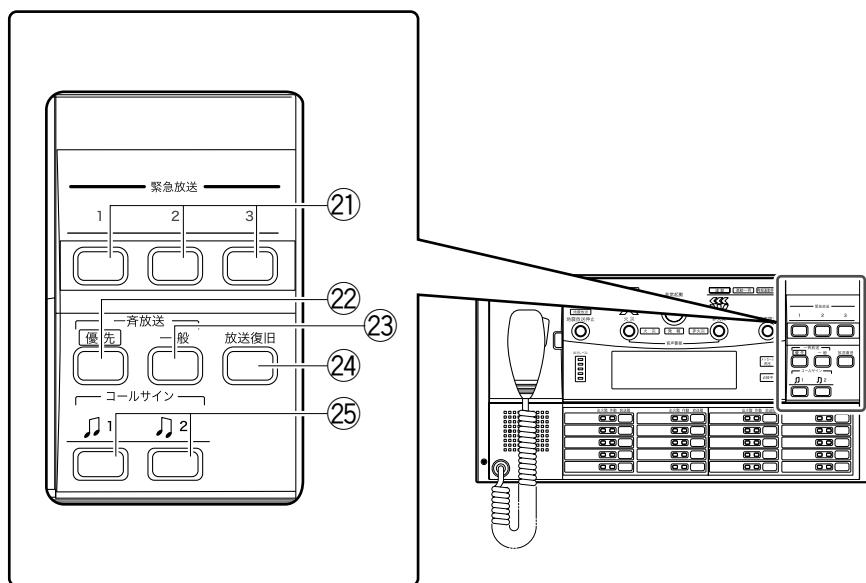
非常操作ユニットの音声出力レベルを表示します。

⑲緊急地震放送停止スイッチ【地震放送停止】

緊急地震放送を手動で停止させたいときに押します。

⑳緊急地震放送表示灯【地震放送】(だいだい色)

緊急地震放送中に点滅します。



②緊急放送スイッチ 1、2、3 [緊急放送1~3]

手動で緊急放送するときに押します。あらかじめ放送先とメッセージを設定しておくことにより、放送先が選択されメッセージを自動送出することができます。

②優先一斉放送スイッチ [一斉放送 優先]

全館に一斉放送するときに押します。すべての放送階の階別作動表示灯が点灯します。

スピーカー配線が3線式のとき、音量調整器がOFF位置の放送階でも最大音量で放送されます。

③一般一斉放送スイッチ [一斉放送 一般]

全館に一斉放送するときに押します。すべての放送階の階別作動表示灯が点灯します。

音量調整器の調整音量で放送されます。音量調整器がOFFに設定された放送階には放送されません。

④放送復旧スイッチ [放送復旧]

放送終了時に押します。選択されていたすべての放送階の階別作動表示灯が消灯します。

⑤コールサインスイッチ [コールサイン ハ1 ハ2]

業務放送中に押すと、コールサイン音が放送されます。

お買い上げ時、各スイッチは次のように設定されています。

1：上り4音ハ

2：下り4音ハ

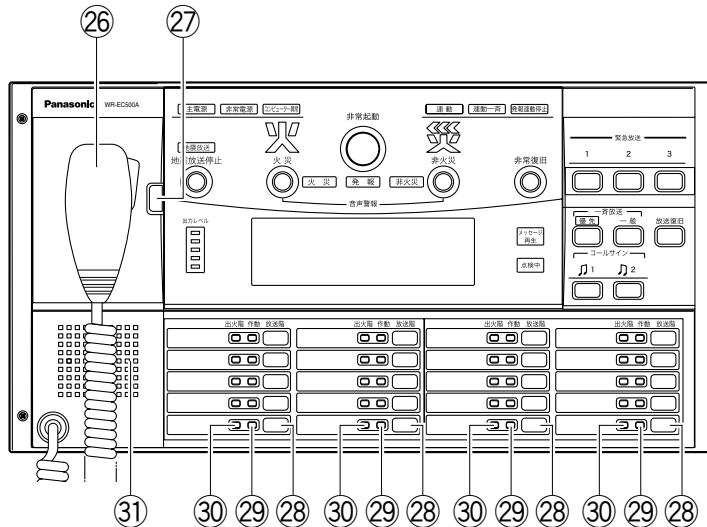
内蔵しているほかのコールサインも設定できます。

詳しくは販売店にご相談ください。



- 非常放送時や緊急放送時はコールサインスイッチを押しても放送されません。

各部のなまえと働き



㉙非常、業務放送兼用マイクロホン（以下、本体マイク）

- ・マイクを取り、マイクスイッチを押しながら放送します。
- ・業務放送中に感知器・発信機・非常電話からの起動で非常放送が入った場合、マイク放送は遮断され、非常放送（音声警報）に切り換わります。
- ・マイク放送を再開するときは、マイクスイッチを一度離し、再度押します。
- ・非常起動スイッチを押した手動起動のときは、マイク放送は遮断されますが音声指示は放送されません。
- ・マイク放送を再開するときは、マイクスイッチを一度離し、放送階選択スイッチを押してから再度マイクスイッチを押します。
- ・マイク放送は音声警報より優先されるので、適切に避難誘導を行ってください。



㉚マイクドア

ドアを開くと、設定のためのスイッチがあります。

㉛放送階選択スイッチ【放送階】

放送する階を選択するときに押します。階別作動表示灯が点灯します。

再度押すと、選択が解除され、階別作動表示灯が消灯します



- ・書き込み設定で業務操作用にしたときは、右上の表示カードを使用します。働きは同じですがスイッチのなまえは業務選択スイッチ【業務選択】になります。

㉜階別作動表示灯【作動】（緑色）

点灯：該当する階のスピーカーから放送できます。

放送階選択スイッチを押すと、選択した階の表示灯が点灯します。

一斉放送スイッチを押すと、すべての階の表示灯が点灯します。

感知器などの作動で非常放送が起動すると、出火階と連動階が点灯します。

点滅：該当する階のスピーカー回線が短絡しています。販売店または保守契約店に連絡してください。



- ・スイッチを業務操作用の業務選択スイッチにしたときは、働きは同じですがなまえは作動表示灯【作動】になります。

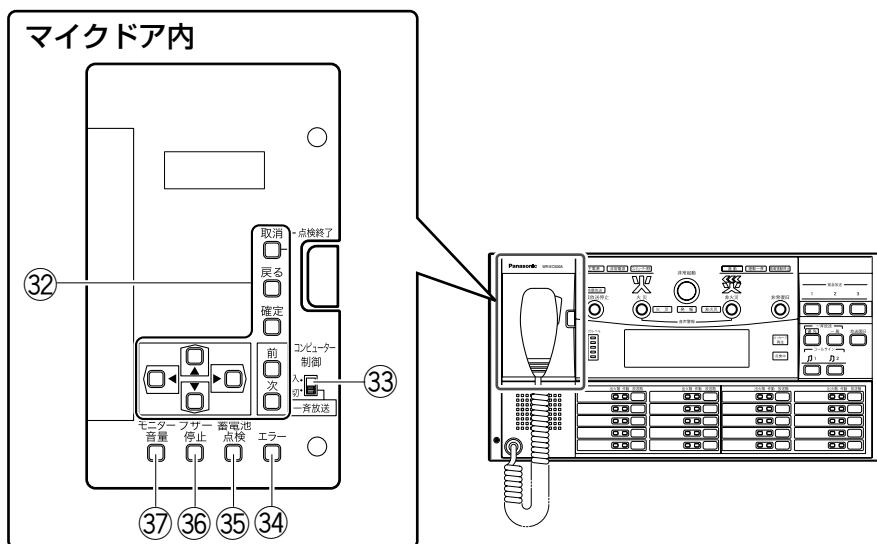
㉝出火階表示灯【出火階】（赤色）

点灯：該当する階で感知器・発信機・非常電話などが作動しています。

㉞モニタースピーカー

放送状態を確認できます。

ハウリング防止のため、本体マイクのマイクスイッチを押している間、モニタースピーカーから音は出なくなります。



②設定スイッチとキー

カーソルキー [▲▼◀▶] : モニタースピーカー音量の調整およびエラー詳細内容の表示を切り換えるときに使用します。

取消スイッチ [取消] [点検終了] : 点検終了に使用します。

戻るスイッチ [戻る] : エラー詳細内容から1つ前の画面に戻るときに押します。

確定スイッチ [確定] : モニター音量設定を確定するときに押します。

前スイッチ [前] / 次スイッチ [次] : エラー詳細内容の画面を切り換えるときに押します。

③コンピューター制御スイッチ [コンピューター制御] [入] [切]

入 : 通常は必ずこの状態を選択します。

切 : [コンピューター異常] 表示灯が点灯したときに、この位置にします。

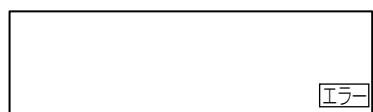
異常があるときは販売店または保守契約店に連絡してください。

異常が発見されて修理されたあとに、[切] から [入] にすると、正常の動作に戻ります。コンピューター異常時に [切] にすると、ブザーが鳴り、本体マイクにより一斉放送ができます。

スピーカー配線が3線式のとき、音量調整器がOFF位置の放送階でも最大音量で放送されます。

④エラースイッチ [エラー]

液晶画面の右下に「エラー」が表示されたときに押します。液晶画面の表示が<異常詳細表示>に切り換わります（→66ページ）。確認した内容を販売店または保守契約店に連絡してください。



⑤蓄電池点検スイッチ [蓄電池点検]

非常放送用の非常電源ユニット（WP-570B）に収納した蓄電池の点検用スイッチです。

異常があるとき、液晶画面に「エラー」と表示されます（→67ページ）。

⑥ブザー停止スイッチ [ブザー停止]

異常発生を知らせるブザー音を止めるときに押します。

ブザーは蓄電池異常、通信異常、EMG24 Vブレイク異常などのときに鳴ります。

ブザー音を止めても異常状態は解消しませんので、販売店または保守契約店に連絡してください。

⑦モニター音量スイッチ [モニター音量]

モニタースピーカーの音量を調整するときに押すと、液晶画面にモニタ一音量が表示されます。カーソルキー（▲、▼）を押して音量を調整し、確定スイッチを押して音量を確定します。

非常放送時は設定に関係なく、最大音量になります。



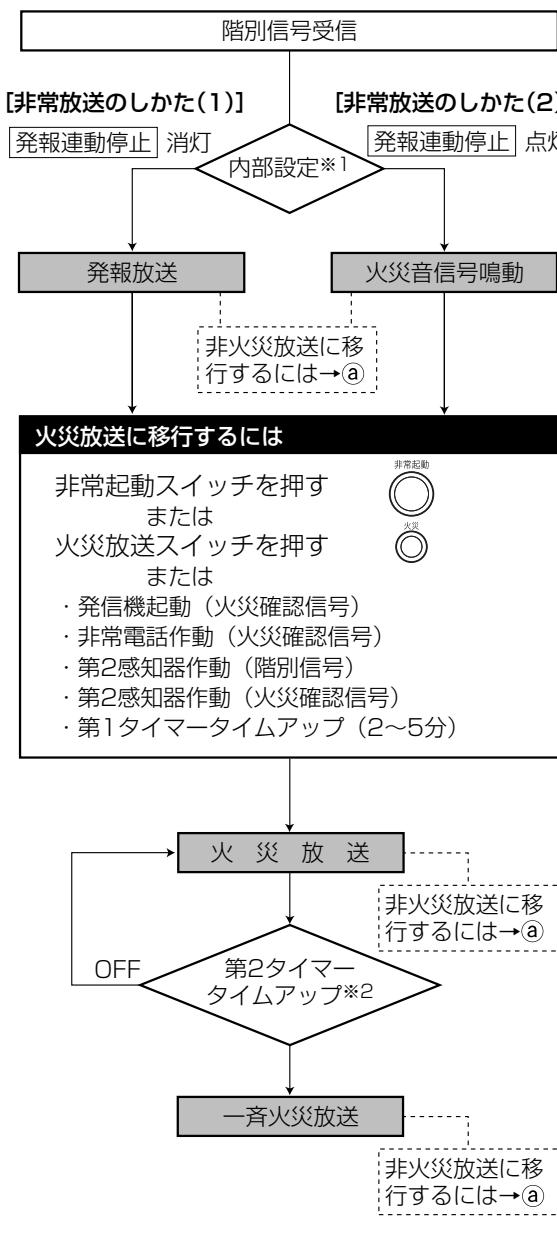
非常放送のしくみ

概要

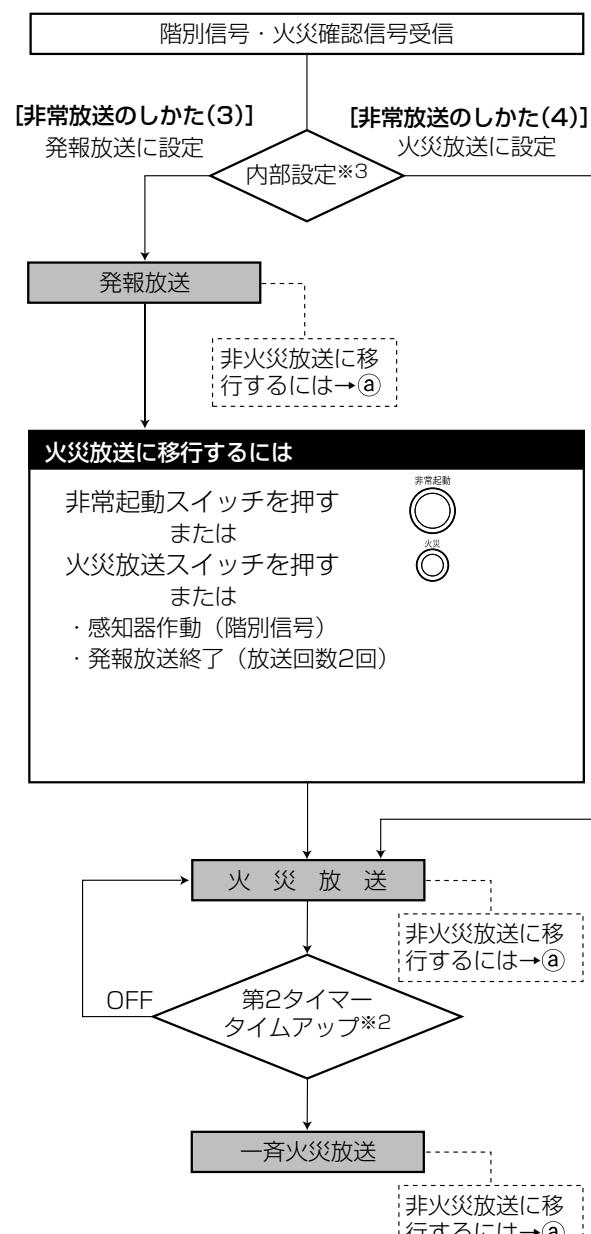
- 非常放送には発報放送、火災放送、非火災放送があります。
 - ・ 発報放送は火災感知器・発信機・非常電話などが作動したことを知らせる放送です。
 - ・ 火災放送は火災が発生したことを知らせる放送です。
 - ・ 非火災放送は火災ではなかったことを知らせる放送です。
- 非常放送は内蔵された音源（音声警報など）を放送しますが、本体マイクからも放送できます。
- 非常時の操作のしかたや放送の流れは、登録された設定内容（起動方法）によって異なり、以下の概略チャートに示される6通りがあります。必ず販売店（工事店）に設定内容をご確認ください。
- それぞれの詳しい操作方法は18ページ以降をお読みください。

操作

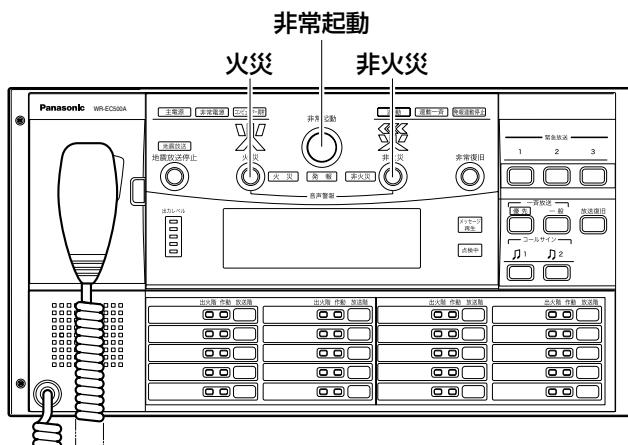
● 感知器起動



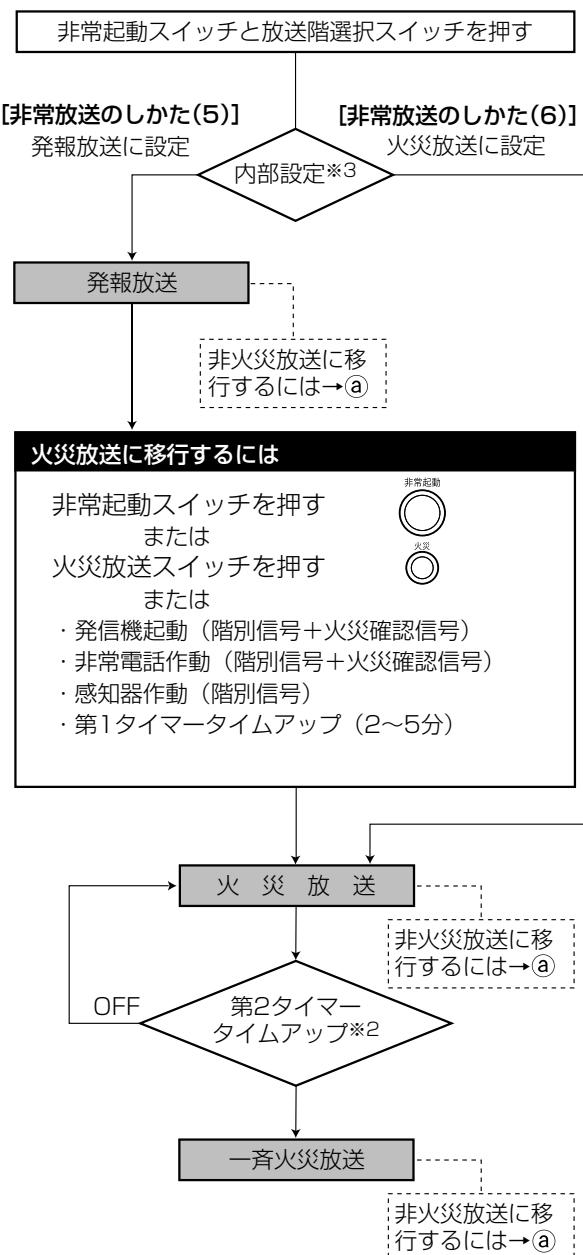
● 発信機・非常電話起動



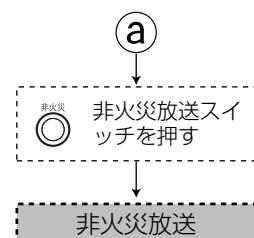
● 発信機・非常電話起動で階別信号と確認信号がほぼ同時に入らない場合は、感知器起動動作になります。



●手動起動



●非火災放送に移行するには
非火災放送スイッチを押します。



●増設階情報（別売品）を使用して階情報変更ができます（販売店にご相談ください）。

※1 発報連動停止の有無設定

※2 一斉火災放送移行時間の設定（OFF、0分、2~5分）

※3 発報放送か火災放送かの設定

非常放送のしくみ

●マイク放送について

- ・非常放送（音声警報）中のマイク放送は、音声警報より優先して放送されます。状況を把握し放送してください。
- ・本体マイクで業務放送中に、火災感知器、発信機または非常電話の起動で非常放送が入った場合、マイク放送は遮断され、非常放送（音声警報）に切り換わります。避難誘導などを放送するときは、本体マイクのスイッチを一度離し、再度スイッチを押してください。
- ・マイク放送後は、下記の状態になります。

発報放送中のマイク放送後：無音、第1タイマー継続

非火災放送中のマイク放送後：無音

火災放送中のマイク放送後：第2シグナル音が鳴ります

●放送復旧スイッチを押したとの動作について

発報放送中の放送復旧後：無選択、無音、第1タイマー継続

非火災放送中の放送復旧後：無選択、無音

火災放送中の放送復旧後：無選択、無音、第2タイマー継続

注) 第2タイマータイムアップによる一斉火災放送中は、放送復旧スイッチを押しても復旧しません。

無選択とは、放送階選択スイッチが解除され、階別作動表示灯がすべて消灯している状態です。

●連動表示が点灯している場合

火災感知器、発信機または非常電話から起動した非常放送は、出火階と連動階に放送されます。

●連動一斉表示が点灯している場合

火災感知器、発信機または非常電話から起動した非常放送は、全館一斉に放送されます。

●第1タイマー設定について

第1タイマー（火災放送移行タイマー）は、2～5分に設定できます（出荷時は5分に設定）。

●第2タイマー設定について

第2タイマー（一斉火災放送移行タイマー）は、OFF、0分、2～5分に設定できます（出荷時は5分に設定）。

OFF : 一斉火災放送に移行しません。

0分 : すぐに一斉火災放送に移行します。

2～5分 : 設定した時間経過のあと、一斉火災放送に移行します。

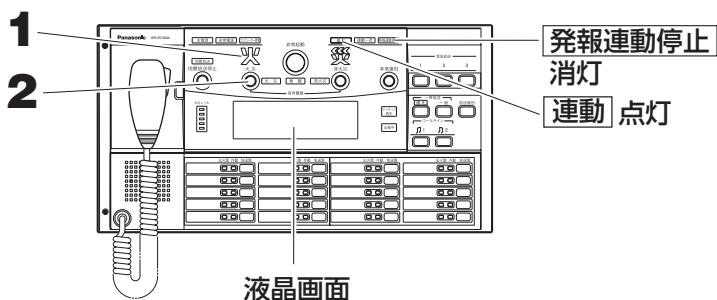
※第1タイマー、第2タイマーは最大59分59秒までの設定が可能ですが、設定時間が5分を越える場合は、所轄消防署の確認が必要です。

非常放送のしかた(1) 感知器起動

発報運動停止 表示→消灯（出荷時：消灯）
運動 表示→点灯



(階別信号入力)
感知器から信号が入る
(第一報)



1 火災灯が点滅し、出火階と連動階に発報放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）

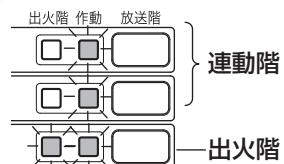
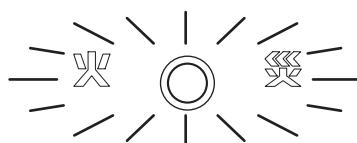
「ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

運動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

- 発報放送終了後、モニタースピーカーから火災音信号（ピーピーピー）が放送されます。

液晶画面

《発報放送中》感知器
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



2 操作を選択する

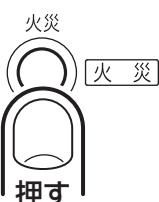
- 火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動
スイッチを押す

以下の場合も自動的に火災放送が放送されます。

- 発信機起動（火災確認信号）★
- 非常電話作動（火災確認信号）★
- 第2感知器作動（階別信号）★
- 第2感知器作動（火災確認信号）★
- 第1タイマータイムアップ（2~5分）

*印のときは発報放送終了後、火災放送に切り換わります。



- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ

- 火災でないことを確認したとき →Bへ

3 火災放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）

「火事です！火事です！○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ（設定時間 OFF、0分、2~5分）

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送が放送される（一斉火災放送）

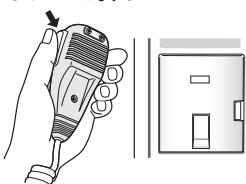
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

スイッチを押す

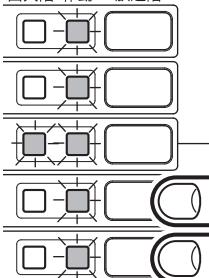


- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 発報放送時にマイク放送したあとは無音となります（第1タイマーは継続します）。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する

出火階 作動 放送階



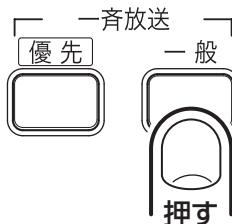
- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

出火階

追加階
押す
押す

b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

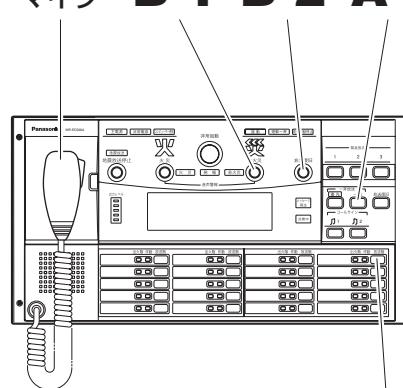
- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



B-1 B-2 A-a



B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

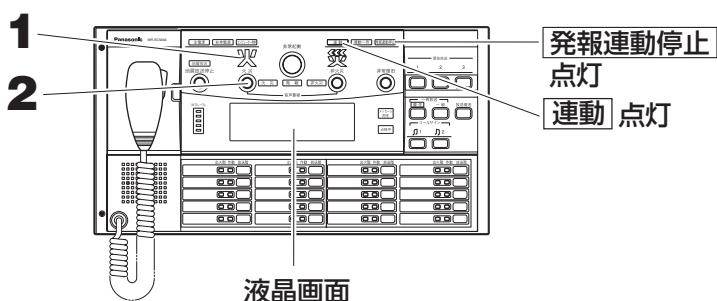


非常放送のしかた(2) 感知器起動

発報運動停止 表示→点灯 (出荷時:消灯)
運動 表示→点灯



(階別信号入力)
感知器から信号が入る
(第一報)



操作

1 火災灯が点滅し、モニタースピーカーから火災音信号が放送される

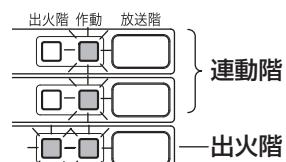
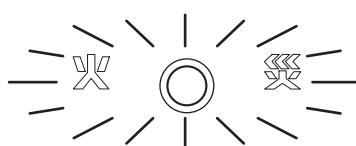
ビー、ビー、ビー、(火災音信号)

火災感知器が作動した。火災のときは火災放送スイッチを押せ。火災でないときは非火災放送スイッチを押せ。

運動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

液晶画面

《非常放送中》感知器
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



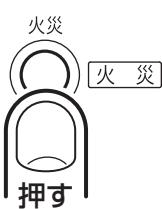
2 操作を選択する

●火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動
スイッチを押す

以下の場合も自動的に火災放送が放送されます。

- 発信機起動(火災確認信号)
- 非常電話作動(火災確認信号)
- 第2感知器作動(階別信号)
- 第2感知器作動(火災確認信号)
- 第1タイマータイムアップ(2~5分)



●状況に応じてマイクで放送する →Aへ

●火災でないことを確認したとき →Bへ

3 火災放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)

「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

●状況に応じてマイクで放送する →Aへ

●火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ(設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送が放送される(一斉火災放送)

液晶画面

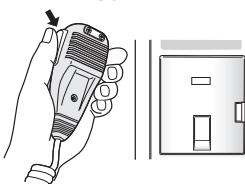
《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

●状況に応じてマイクで放送する →Aへ

●火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

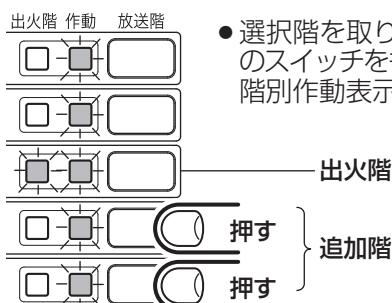
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している間にマイク音が放送されます。
- 運動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災信号音（ピーピーピー）放送時にマイク放送したあとは無音となります（第1タイマーは継続します）。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき

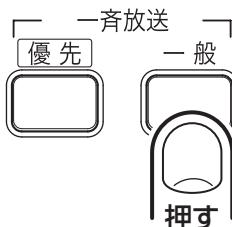
必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する



- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アンテナーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送が放送されます。

ピンポンピンポンピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

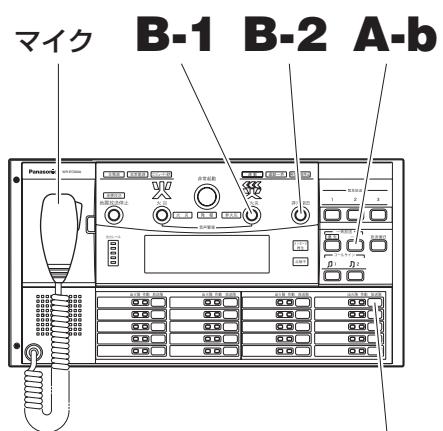
- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



マイク



B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。



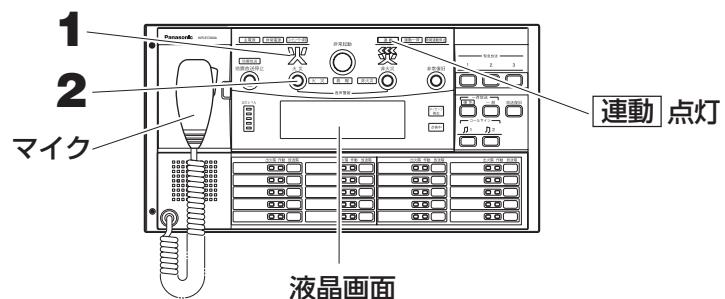
非常放送のしかた(3) 発信機・非常電話起動(発報)

「発報放送」に設定の場合(出荷時:発報放送)

連動表示→点灯



(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号が入る
(第一報)



1 火災灯が点灯し、出火階、連動階に発報放送が放送される

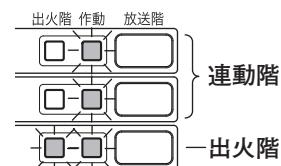
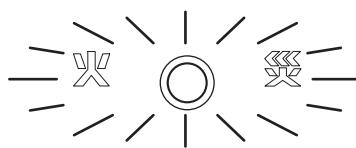
ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)

「ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

連動一斉表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

液晶画面

《発報放送中》発信機
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



2 操作を選択する

●火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す

以下の場合も自動的に火災放送が放送されます。

●感知器作動(階別信号)★

●発報放送終了(放送回数2回)

*印のときは発報放送終了後、火災放送に切り換わります。



●状況に応じてマイクで放送する
→Aへ

注意

発報放送時にマイク放送したあと、マイクスイッチを切ると火災放送に移行します。

●火災でないことを確認したとき
→Bへ

3 火災放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)

「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

●状況に応じてマイクで放送する
→Aへ
●火災でないことを確認したとき
→Bへ

第2タイマータイムアップ(設定時間 OFF、0分、2~5分)

●「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送が放送される(一斉火災放送)

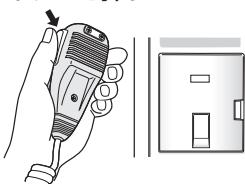
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

●状況に応じてマイクで放送する
→Aへ
●火災でないことを確認したとき
→Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

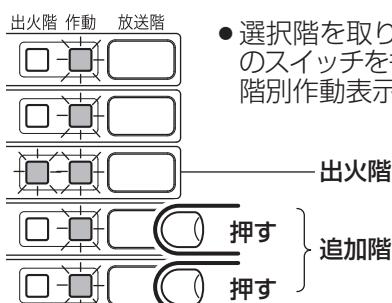
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- 運動一斉 表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

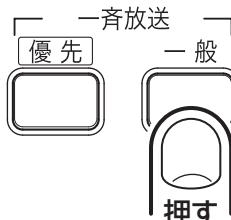
a 放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する



b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アンテナーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送が放送されます。

ピンポンピンポンピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありました。ご安心ください。」

液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

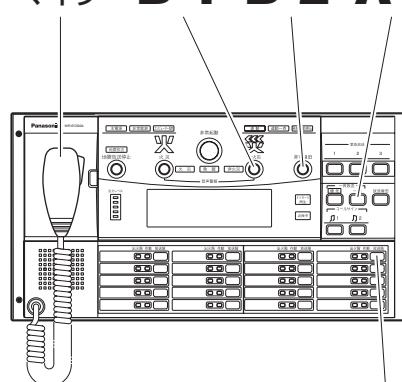
●状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



B-1 B-2 A-b



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。



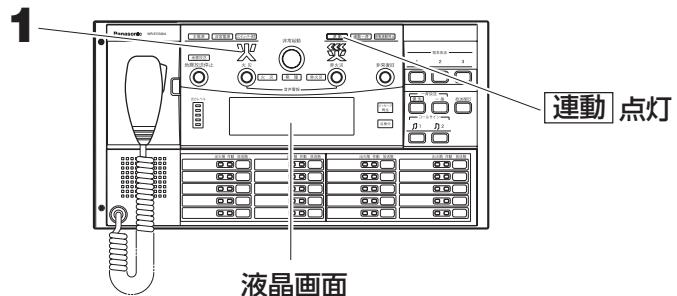
非常放送のしかた(4) 発信機・非常電話起動(火災)

「火災放送」に設定の場合（出荷時：発報放送）

連動表示→点灯



(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号が入る
(第一報)



操作

1 火災灯が点灯し、出火階、連動階に火災放送が放送される

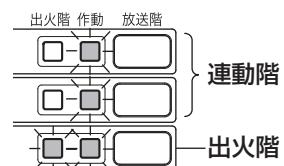
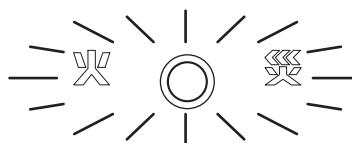
ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）

「火事です！火事です！○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）

連動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ（設定時間 OFF、0分、2～5分）

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

2 全館に火災放送が放送される（一斉火災放送）

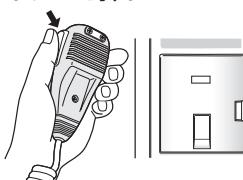
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

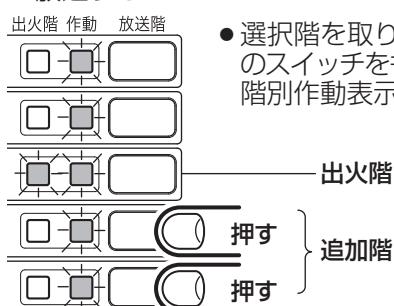
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- 【運動一斉】表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき

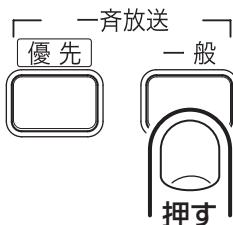
必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する



- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

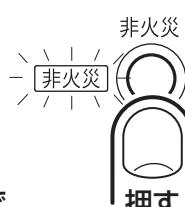
液晶画面

「非火災放送中」
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

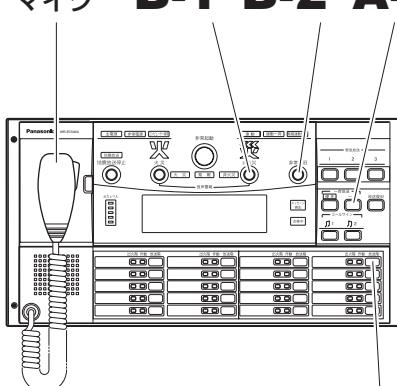
- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



B-1 B-2 A-a



B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

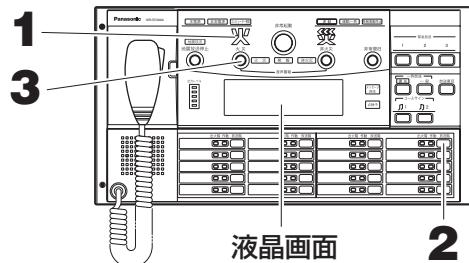


非常放送のしかた(5) 手動起動(発報)

「発報放送」に設定の場合(出荷時:発報放送)



手動起動には、連動と個別の2種類があります(出荷時は連動)。
違いは、70ページをお読みください。



1 非常起動スイッチを押す

放送階選択スイッチを押せ(音声指示)

液晶画面

《手動非常起動》
放送階選択スイッチを押せ

液晶画面

2



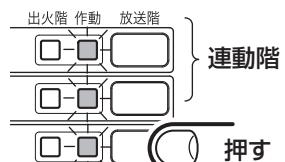
2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)

「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

液晶画面

《発報放送中》手動起動
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



- 手動連動のとき選択階と連動階の階別作動表示灯が点灯
- 個別手動のときは選択階のみ点灯

3 操作を選択する

●火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す

以下の場合も自動的に火災放送が放送されます。

- 発信機起動(火災確認信号+階別信号)*
- 非常電話作動(火災確認信号+階別信号)*
- 感知器作動(階別信号)*
- 第1タイマータイムアップ(2~5分)

*印のときは発報放送終了後、火災放送に切り換わります。



●状況に応じてマイクで放送する

→Aへ

マイクを外し、マイクスイッチを押すとマイク放送が優先して放送されます。

●火災でないことを確認したとき

→Bへ

4 火災放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)

「火事です!火事です!(○階で)*火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

※:階別信号を受信して火災放送に切り換わったとき、階情報(○階で)が自動的に文章に追加されます。

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ(設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

5 全館に火災放送が放送される(一斉火災放送)

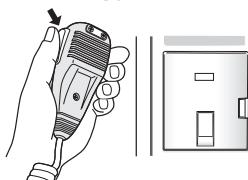
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

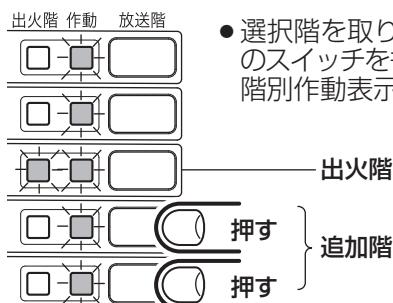
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュー）が鳴ります。
- 発報放送時と非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき

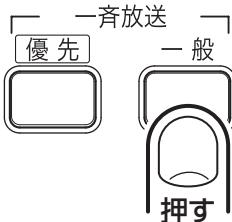
必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する



- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アンテナーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

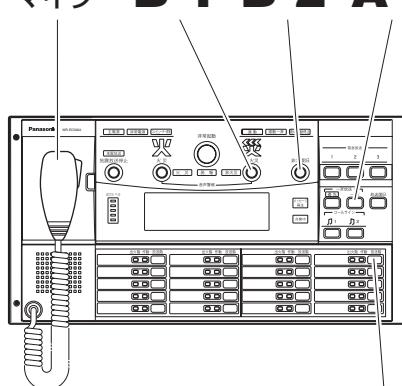
- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



B-1 B-2 A-a



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

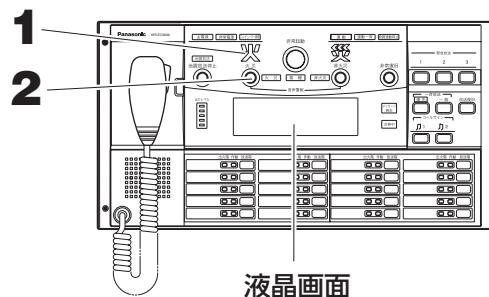


非常放送のしかた(6) 手動起動(火災)

「火災放送」に設定の場合（出荷時：発報放送）



手動起動には、連動と個別の2種類があります（出荷時は連動）。
違いは、70ページをお読みください。



操作

1 非常起動スイッチを押す

放送階選択スイッチを押す（音声指示）

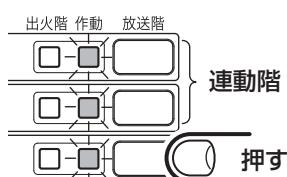
液晶画面

《手動非常起動》
放送階選択スイッチを押す



2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

- 手動連動のときは選択階と連動階の階別作動表示灯が点灯
- 個別手動のときは選択階のみ点灯



3 火災放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）

「火事です！火事です！火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ
- 火災でないことを確認したとき → Bへ

第2タイマータイムアップ（設定時間 OFF、0分、2～5分）

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送が放送される（一斉火災放送）

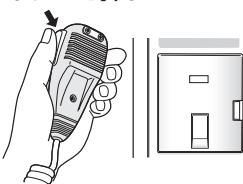
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ
- 火災でないことを確認したとき → Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

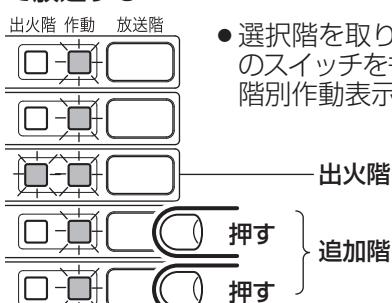
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している間にマイク音が放送されます。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

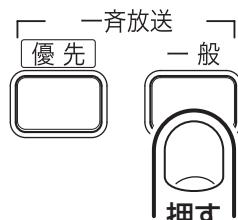
a 放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する



b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送が放送されます。

「ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」」

液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

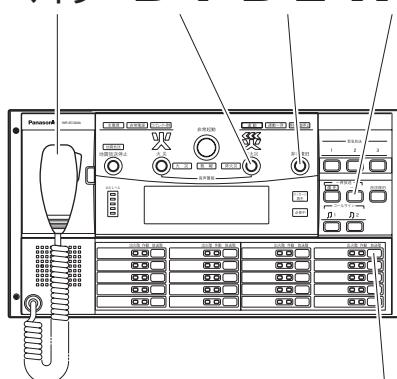
●状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



B-1 B-2 A-a



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。



緊急地震放送について

■緊急地震放送とは

緊急地震速報受信端末からの起動信号により、自動で地震放送ができます。

緊急地震放送は、放送の優先順位が最上位で、この放送を行っている間は、非常放送、緊急放送、業務放送は行えません。また、停電時も非常放送用の非常電源により放送が可能です。

■緊急地震放送の動作

緊急地震速報受信端末より緊急地震速報を受信



操作

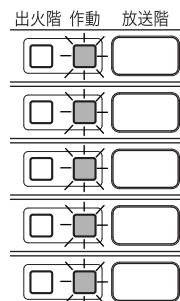
1 地震放送中表示灯が点滅し、緊急地震放送が放送される。

チャイム音2回。「地震です。落ち着いて身を守ってください。」

- あらかじめ設定した階すべてに放送されます。
(手動操作により、放送階に追加・削除を行うことはできません。)
- マイク放送はできません。

液晶画面

《地震放送中》
放送終了→地震放送停止を押せ
マイク放送はできません



※緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。

A 緊急地震放送を停止させたいときは

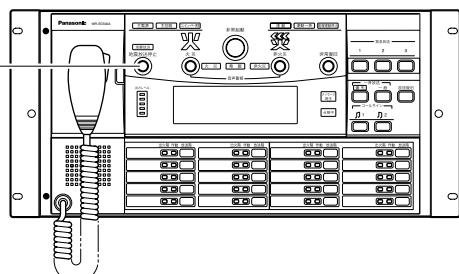
A-1 地震放送停止スイッチを押す。

緊急地震放送が停止します。

※緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。



A-1

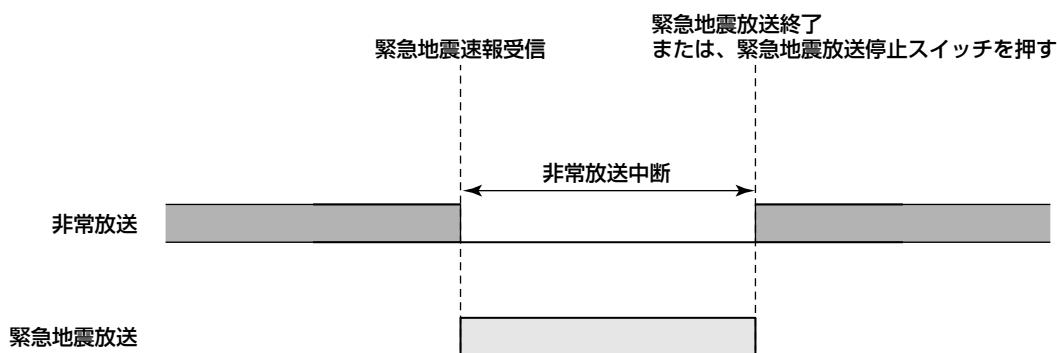


- WL-8000、WL-8500に本機を接続した場合は、「地震放送」表示灯、「地震放送停止」スイッチは動作しません。

■緊急地震放送を行っているときの非常放送について

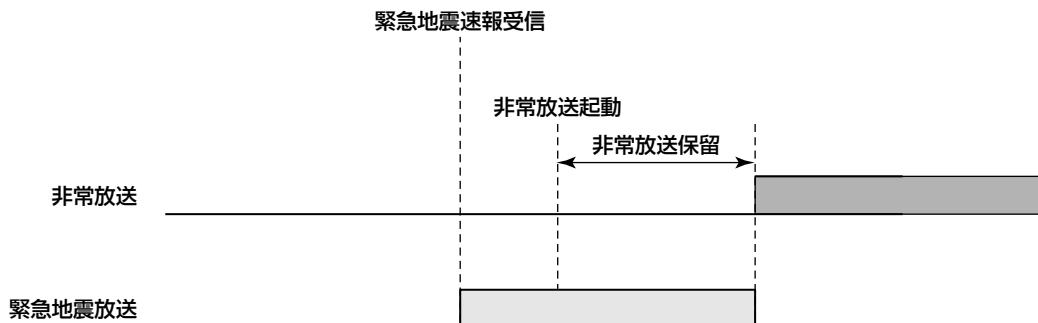
緊急地震放送は、非常放送より優先して放送されます。緊急地震放送中の非常放送の動作は以下の通りです。

●非常放送中に緊急地震速報を受信したとき



- ・非常放送中に緊急地震速報を受信した場合、非常放送は中断し、緊急地震放送に切り換わります。

●緊急地震放送中に非常放送起動入力を受信したとき



- ・緊急地震放送中に非常放送が起動した場合、緊急地震放送が優先され、非常放送は保留状態になります。
- ・緊急地震放送中は、非常放送に関するスイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作は無効となります。非常放送の階別信号や火災確認信号を受信した場合は保留状態となり、緊急地震放送終了後の非常放送状態に反映されます。
- ・緊急地震放送中に、非常放送を優先させたいときは、地震放送停止スイッチを押して、緊急地震放送を終了させる必要があります。

緊急放送のしかた

緊急放送とは

緊急事態のとき、業務放送に優先して行うことができる放送です、非常放送、地震放送時は中断します。

3つの緊急放送スイッチによるワンタッチ放送

- 操作部にある3つの緊急放送スイッチで、業務放送中でもワンタッチで優先して放送ができます。
- 3つの緊急放送スイッチは、後押し優先で作動します。

外部機器からの制御による放送

- 外部機器（外部センサーなど）からの起動で、放送ができます。

操作

内蔵の緊急メッセージの再生放送

- 内蔵したメッセージを3つの緊急放送スイッチ、または外部制御入力に割り付けることにより、再生して放送ができます。

停電時の緊急放送

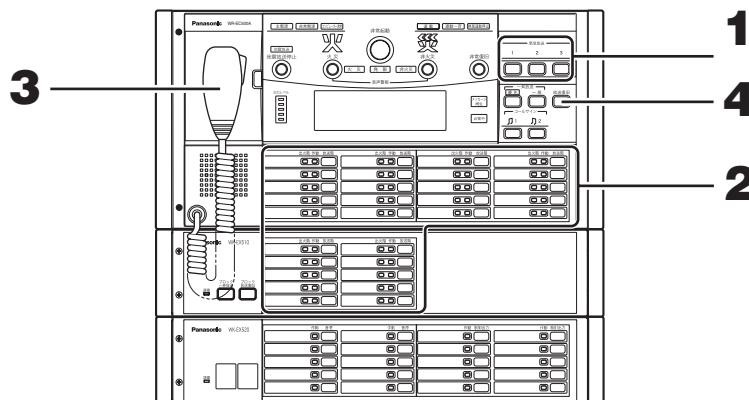
- 非常放送とは別に、緊急業務放送用として非常電源ユニット（WP-570B）を接続することにより、停電時の緊急放送ができます。



- 放送場所の設定、音源機器の接続状態、メッセージ再生の登録などは、販売店（工事店）にご確認ください。

緊急放送スイッチによる放送

緊急放送スイッチに、放送先、メッセージが登録されている前提での操作手順です。



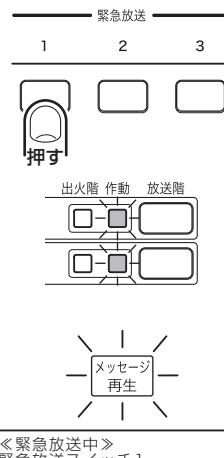
1 緊急放送スイッチを押す

登録された放送先の階別作動表示灯が点灯し、メッセージが放送されます。

緊急放送中に非常起動が入力されると、非常放送が優先して放送されます。

メッセージ再生表示灯が点灯します。

メッセージの再生は1回と繰り返しの設定になります。

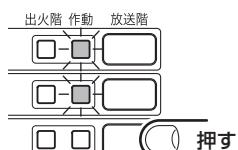


《緊急放送中》
緊急放送スイッチ1
マイク放送→マイクスイッチ
放送先変更→放送階スイッチ

2 放送先を追加するとき、放送階選択スイッチを押す

放送階の追加ができます。

※一斉放送するときは、優先一斉または一般一斉スイッチを押します。



3 状況に応じて、本体マイクで放送する（マイク放送優先）

マイクスイッチを離すと、メッセージ放送が途中であればメッセージ放送に戻ります。



4 放送復旧スイッチを押す

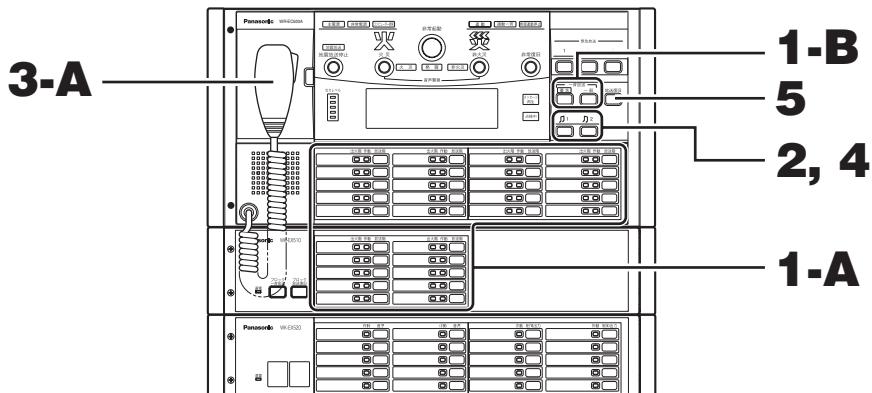
緊急放送が始まる前の状態に復旧します。



- 緊急放送スイッチは、後押し優先で作動します。あとに押した緊急放送スイッチで登録された放送が、すでに行われている放送を中断して放送します。

業務放送のしかた

非常リモコンからの放送

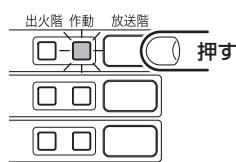


操作

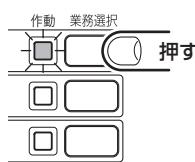
1-A 個別に放送するとき

放送したい場所の放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押す
階別作動表示灯または作動表示灯が点灯します。

放送階選択スイッチ



業務選択スイッチ



液晶画面



1-B 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す

優先



最大音量で放送されます。
アッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送できます。

一般



アッテネーター（音量調整器）で調整された音量で放送されます。
OFFのときは放送されません。

業務放送スイッチのみに登録された場所には放送されません。

2 コールサインスイッチ1または2を押す

お買い上げ時はコールサインスイッチ1は「上り4音」、コールサインスイッチ2は「下り4音」に設定されています。

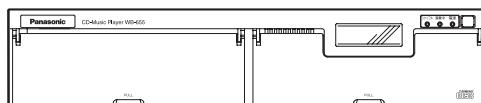


3-A 本体マイクで放送する



3-B 外部の音源機器等（ラインに接続されている機器）から放送する

外部の音源機器を再生状態にする



4 放送終了後コールサインスイッチ1または2を押す



5 放送復旧スイッチを押す

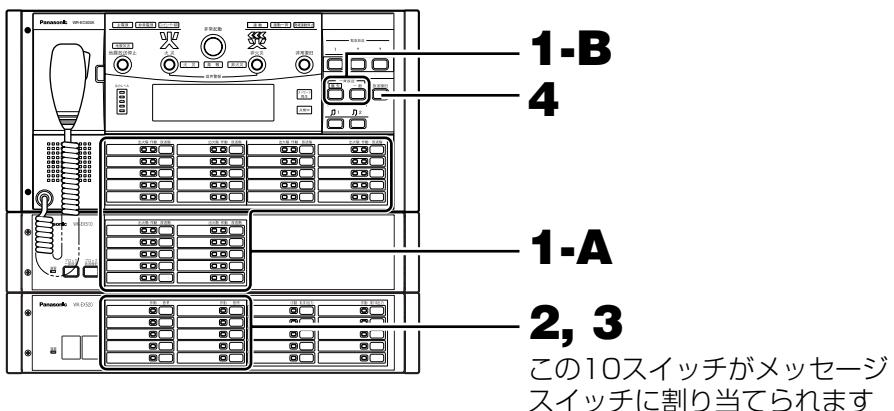
放送した場所の選択が解除され階別作動表示灯、作動表示灯が消灯します。



内蔵メッセージの放送

非常用放送設備本体に内蔵されたメッセージ音声を利用した業務放送について説明します。

- !重要**
- この機能を使用するには、20局の増設用操作ユニット（WR-EX520またはWK-EX520）1台を接続して、10個のスイッチをメッセージスイッチに割り当てる設定があらかじめ必要です。設定は販売店（工事店）にご確認ください。

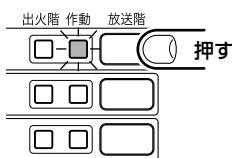


1-A 個別に放送するとき

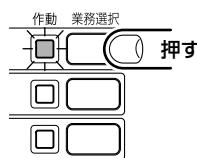
放送したい場所の放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押す

階別作動表示灯、作動表示灯が点灯します。

放送階選択スイッチ



業務選択スイッチ



液晶画面

《業務放送中》
非常FM

1-B 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



最大音量で放送されます。
アッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送できます。



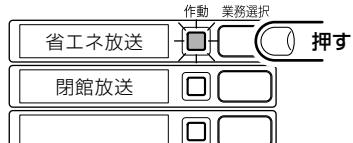
アッテネーター（音量調整器）で調整された音量で放送されます。
OFFのときは放送されません。

業務放送スイッチのみに登録された場所には放送されません。

2 放送するメッセージのスイッチを押す

内蔵メッセージ再生用に設定された増設用操作ユニットの業務選択スイッチ（メッセージスイッチ）を押します。

作動表示灯が点灯します。



放送されます。

メッセージ再生表示灯が点灯し、設定された回数（1回または繰り返し）でメッセージが放送されます。

3 再度、該当するメッセージのスイッチを押す

作動表示灯が消灯し、再生が停止します。

4 放送終了後、放送復旧スイッチを押す

放送階選択スイッチの階別作動表示灯、業務選択スイッチの作動表示灯が消えます。



業務放送のしかた

操作

汎用出力スイッチ機能について

汎用出力機能を使用することで、本機から外部機器を制御できます。

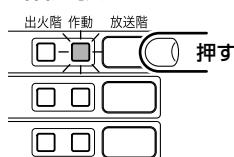
この機能を使用して、外部機器の音源による業務放送について説明します。

- ・この機能が利用できる増設用操作ユニットは20局の増設用操作ユニット（WR-EX520またはWK-EX520）1台のみです。内蔵音源再生機能を設定したときは同じ増設用操作ユニット（WR-EX520またはWK-EX520）になります。

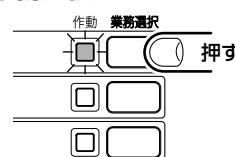
1-A 個別に放送するとき

放送したい場所の放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押す
階別作動表示灯または作動表示灯が点灯します。

放送階選択スイッチ



業務選択スイッチ



液晶画面

『業務放送中』
非常RM

1-B 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



最大音量で放送されます。
アッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送できます。

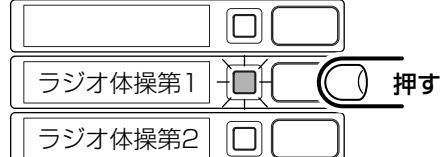


アッテネーター（音量調整器）で調整された音量で放送されます。
OFFのときは放送されません。
業務放送スイッチのみに登録された場所には放送されません。

2 放送する音源の外部機器が設定されたスイッチを押す

汎用出力機能に設定された増設用操作ユニットの業務選択スイッチ（汎用出力スイッチ）を押します。
作動表示灯が点灯します。

作動 業務選択



放送されます

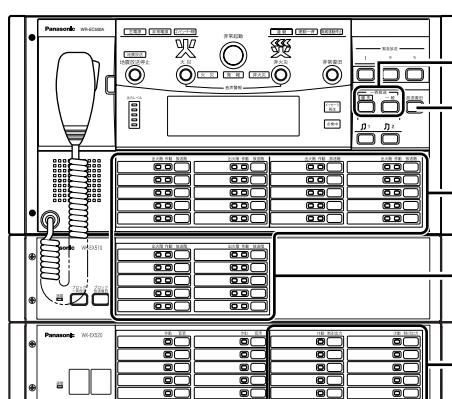
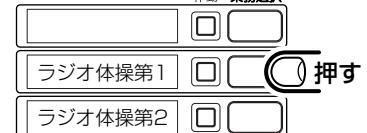
外部機器が制御されて作動します。

3 再度スイッチを押す

外部機器の制御が解除され（停止）、作動表示灯が消灯します。

※設定により非常放送、緊急放送起動中も汎用出力制御を動作させることができます。

作動 業務選択



1-B

4

1-A

2, 3

4 放送終了後、放送復旧スイッチを押す

放送階選択スイッチの階別作動表示灯、業務選択スイッチの作動表示灯が消えます。

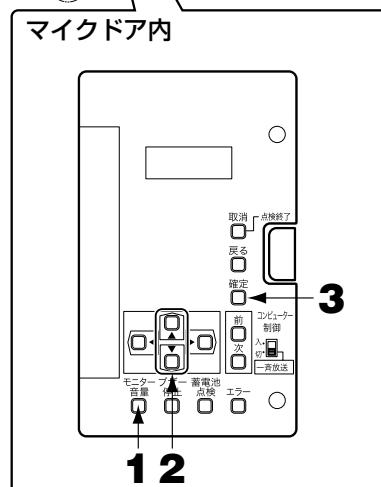
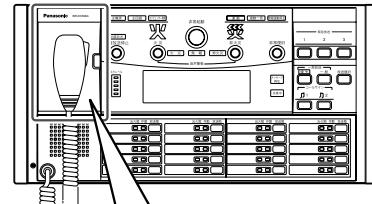


モニター音量の調整

モニタースピーカーの音量を調整します。

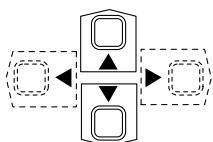
1. マイクドア内のモニター音量スイッチを押す

音量調整画面が液晶に表示されます。



2. カーソルキー ▲ ▼を押して音量を調整する

表示されている■の数が増減します。



- 音量調整を中止するときは、[戻る] スイッチを押します。
- 10秒間操作しないと、音量調整を中止して通常画面に戻ります。

3. 確定キーを押す

音量が確定します。



- 非常放送時は設定に関係なく最大音量になります。
- 確定キーを押さないと、約10秒で元の音量に戻ります。

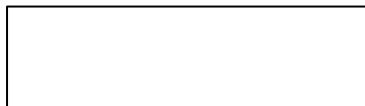
相互通話のしかた

放送が行われていないときは、マイクを使ってラック形非常用放送設備（本体）と非常リモコン（本機）間で相互通話（インターホン）ができます。

相互通話のしかた

1. 放送が行われていないことを液晶画面で確認する

放送が行われていないとき、液晶画面には何も表示されません。

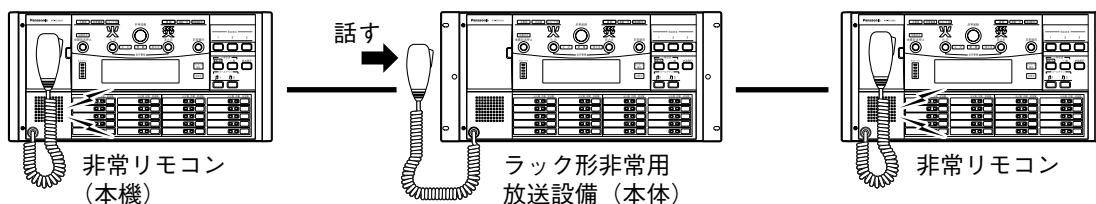


※放送階選択スイッチが押され、液晶画面に表示された状態では、マイク音声は選択された階へ放送されます。
(通常の放送となります)

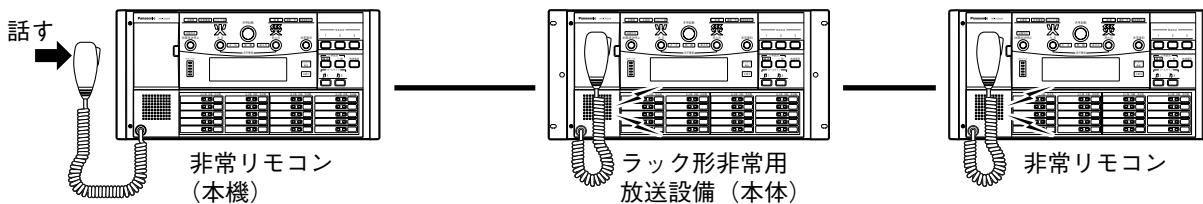
操作

2. 本体マイクを取り、マイクスイッチを押しながら話す

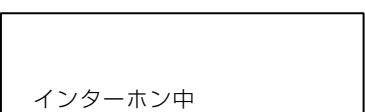
- ラック形非常用放送設備の本体マイクからの音声は、接続したすべての非常リモコンのモニタースピーカーから放送されます



- 非常リモコンのマイクからの音声は、ラック形非常用放送設備と接続したほかの非常リモコンのモニタースピーカーから放送されます



- 相互通話中は、液晶画面に「インターホン中」と表示されます。



日常点検

万一の際（非常時）にも的確に機器が動作するように、日常点検を行ってください。

日常点検で異常を発見したときは、ただちに販売店または保守契約店に連絡してください。

※日常点検は、動作の一部だけを点検するものです。必ず定期的に総合的な保守点検を行ってください。

日常点検で蓄電池に異常がある場合、そのユニットに内蔵している全数の蓄電池を交換してください。また蓄電池の寿命は、使用する・しないにかかわらず4年間です。これを過ぎると、たとえ点検時に正常電圧が表示されても交換が必要です。交換は販売店または保守契約店に依頼してください。

電源の点検

主電源 (DC24 V) の点検

操作パネルの主電源表示灯が点灯していることを確認する

※停電または電源電圧が低い場合は点灯しません。

非常電源 (DC24 V) の点検

非常用放送設備本体に接続された非常放送用の非常電源ユニットを点検します。

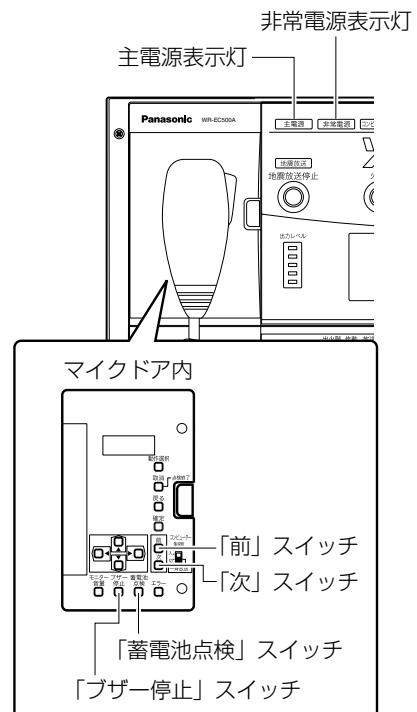
操作パネルの非常電源表示灯が緑色点灯していることを確認する

※電源電圧が低い場合は赤色で点灯します。

蓄電池点検

非常放送用に設備された非常電源ユニット内の蓄電池の電圧を点検します。

- 業務放送用や緊急放送用に設備された非常電源ユニットの点検は、行いません。非常電源ユニットの点検スイッチでの点検または、自動点検で行われます。
- 手動点検が実行されたあと、24時間おきに自動点検を行います。



点検手順

1. 液晶画面が通常動作画面であることを確認する

※非常放送中および緊急放送中は操作できません。

2. マイクドアを開けて【蓄電池点検】スイッチを押す

スイッチを押してから約10秒後に点検結果を表示します。

蓄電池が正常のときは、液晶画面は通常動作画面のままでです。

蓄電池が異常のときは、ブザー音が鳴り、液晶画面右下に「エラー」が表示されます。

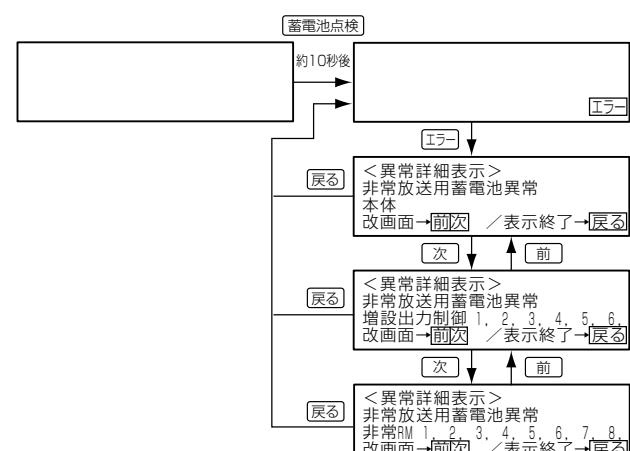
※ブザー音を止めるときは、マイクドア内の【ブザー停止】スイッチを押します。

3. マイクドア内の【次】、【前】スイッチを押して、異常があるユニットを特定する

非常リモコン用および増設用出力制御用として非常電源ユニットを接続している場合、これらの蓄電池も含めて異常のある蓄電池の特定を行い、液晶画面に表示します。

なお、複数台接続された非常電源ユニットについては、液晶画面から異常のある蓄電池の特定はできません。非常電源ユニット (WP-570B) の点検スイッチを押して、異常のあるユニットを特定します。

※接続したユニットに異常がなければ、次の画面に移ります。

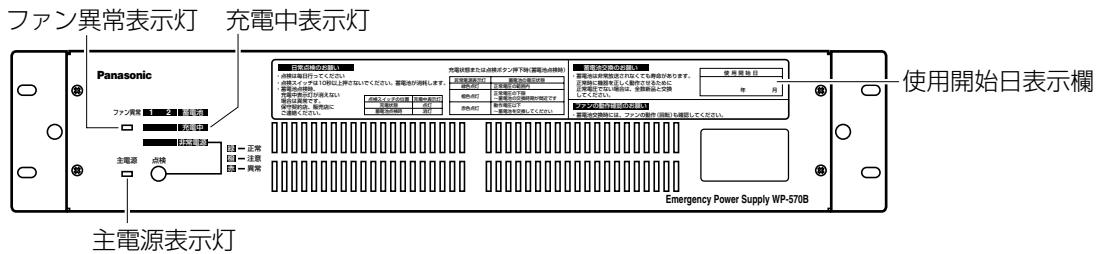


日常点検

4. 異常が発見された非常電源ユニットを確認する

① 主電源表示灯、充電中表示灯、ファン異常表示灯を確認する

使用開始日から4年を過ぎていないか確認する。



正常状態……主電源表示灯、充電中表示灯は点灯、ファン異常表示灯は消灯



- 接続された蓄電池が1個だけのとき、もう一方の充電中表示灯は点灯しません。
個数について、あらかじめ販売店（工事店）にご確認ください。

② 点検スイッチを押しながら非常電源表示灯を確認する

充電中表示灯は消灯します。

緑：正常電圧の範囲内

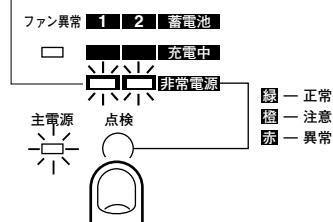
橙：正常電圧の下限（蓄電池の交換時期が間近です。）

赤：動作電圧以下（蓄電池を交換してください。）

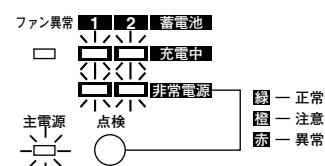


- 押している時間が短いと正しい点検ができませんので、5秒以上は押してください。
- 点検時は蓄電池を消耗します。点検スイッチは10秒を超えて押さないでください。

非常電源表示灯



③ 点検スイッチを放し、充電中表示灯が点灯するか確認する



- 業務放送用や緊急放送用に設備された非常電源ユニットの確認は、自動点検（→66ページ）で行われます。
非常用放送設備本体の蓄電池点検スイッチによる手動点検では、非常放送用のみの確認になります。
- 手動点検が実行されたあと、24時間おきに自動点検を行います。

●蓄電池の交換について

△ 注意

蓄電池の交換は、販売店か
保守契約店に依頼する



感電の原因になります。

- 蓄電池の寿命は、使用しないにかかわらず4年間です。これを過ぎると、たとえ点検時に正常電圧が表示されても全数交換が必要です。
- 交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。
- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



Ni-Cd

工事説明

⚠ 警告

傷害防止のため、本機は取扱説明書にしたがって、壁にしっかりと取り付ける必要があります。

工事は必ず販売店に依頼してください。

工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にし、本機に電源を供給するラック形非常用放送設備（以下、本体）を接続した分電盤のブレーカーを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

設置上のご注意

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

本機は屋内専用です。

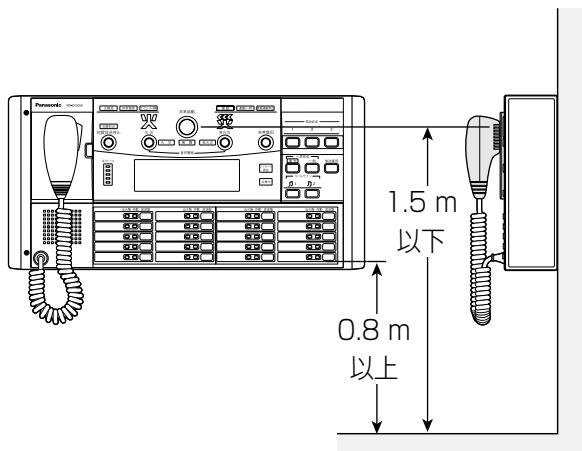
屋外での使用はできません。

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

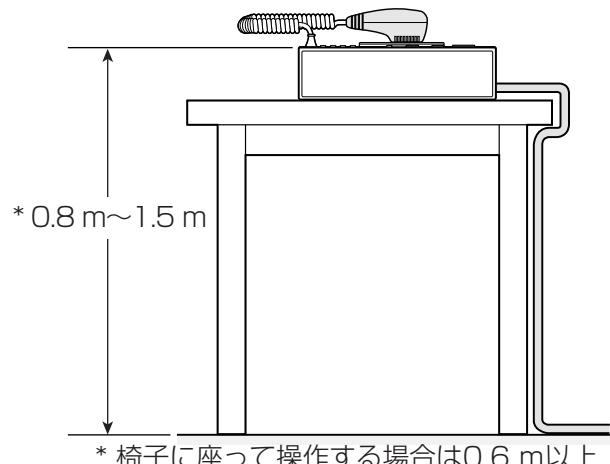
取り付け高さ（壁掛け／卓上で使用する場合）

非常起動スイッチから放送階選択スイッチ下部までが、床面から0.8 m～1.5 mの範囲に収まるように取り付けてください。

・壁掛け型で使用する場合



・卓上型として使用する場合

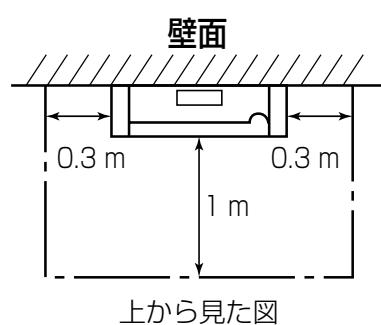


取り付け壁面の強度

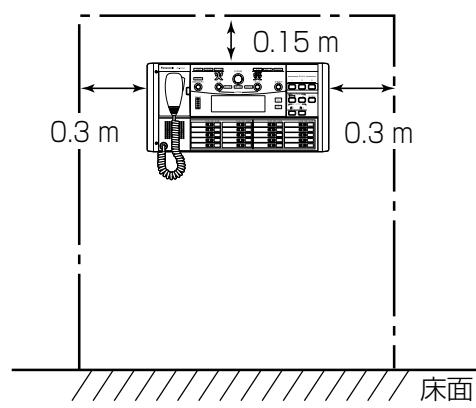
- ・本機は50 kg以上の荷重に耐えられるコンクリート壁面や20 mm以上の板壁面に取り付けてください。
- ・化粧合板やボード製の壁面には取り付けないでください。落下などでの原因になります。

周囲に障害物を置かない

下図の範囲内に物を置かないで、操作空間を確保してください。



上から見た図

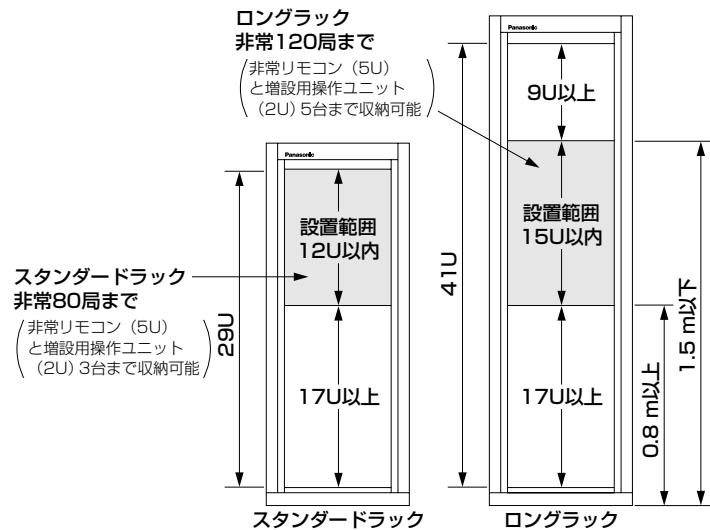


正面から見た図

工事説明

取り付け高さ（ラックに収納する場合）

- 法令により、非常操作部は床面より0.8 m～1.5 mの高さに設置するよう定められています。非常リモコン（WR-EC500A）および増設用操作ユニット（WK-EX510/EX520）は右図の範囲に取り付けます。
- 指定の高さに収まらないときは、ロングラック（WU-RL85）またはスタンダードラック（WU-RS80）を追加し、横に並べて設置します。



「非常放送のしかた」手順書は設定した起動方式を表にする

透明ケースから取り出し、設定した起動方式が見えるように表にし、裏面は一緒に入れてある白紙でかくして、再度透明ケースに入れてください。設定起動は、「非常放送のしかた」手順書の表題の下に記載しています。

「非常放送のしかた」手順書は本機のそばに置く

非常に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。

アースについて

- 非常リモコンを収納するラックは、ラック後面のアース板に、ラックに付属の丸端子を使用して、アースをとつてください。
- 壁掛け／卓上で使用する場合は、内部端子台のSIGNAL GND端子でアースをとってください。
- 外部電源として電源制御ユニット（WU-L62）を接続する場合、必ず電源制御ユニット（WU-L62）はGND端子でD種接地工事を行ってください。

静電気について

静電気による破損を防止するために、作業を始める前にパネルなどの金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

卓上型として使用する場合のケーブルの引き込みについて

ケーブルは上下面の通線口から入れてください。消防用認定耐熱対形ケーブル（ペア線）の線径が太いため、底面から入れるとケーブルで本機が浮き上がり、安定しません。

本体側で非常リモコンの台数設定を行い、本機側でアドレス設定を行う

本機を本体に接続するときは、本体側で台数設定（書き込み）と本機側でユニットアドレスの設定を行ってください。

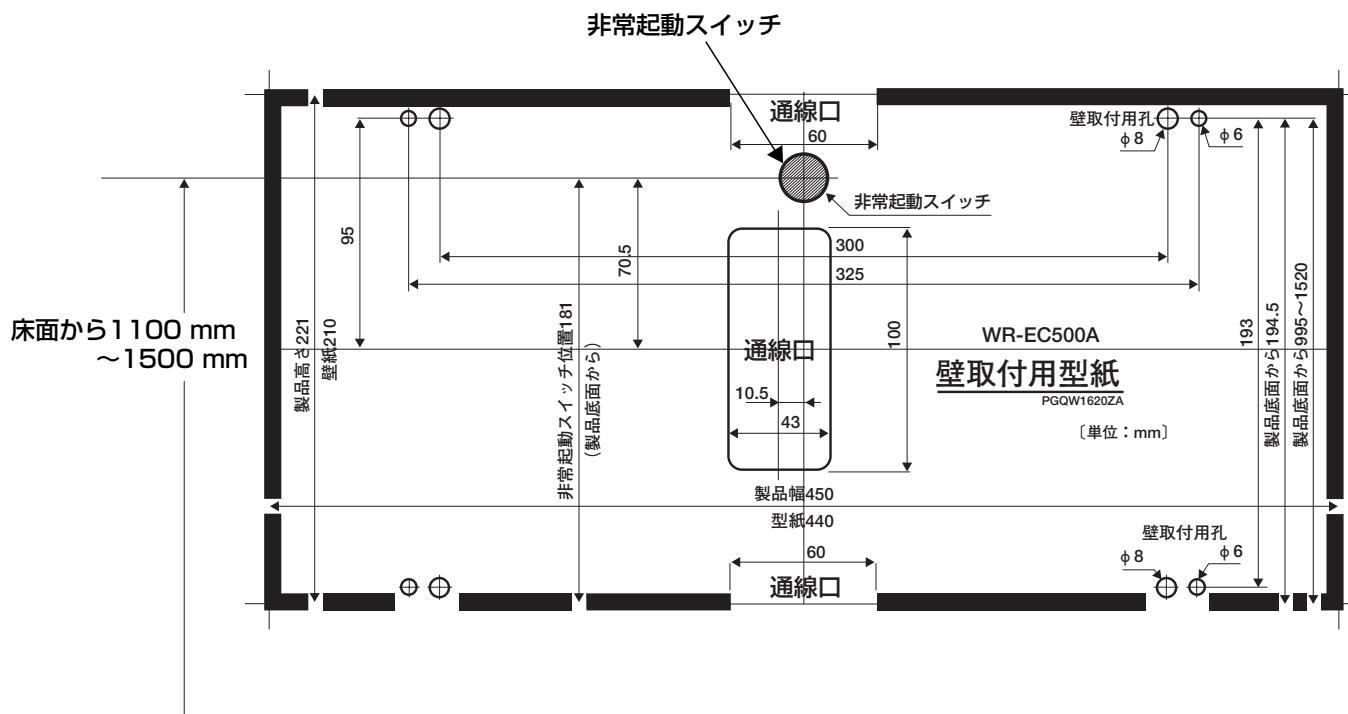
外部電源の電源制御ユニット、非常電源ユニットはラックに収納する

設置のしかた

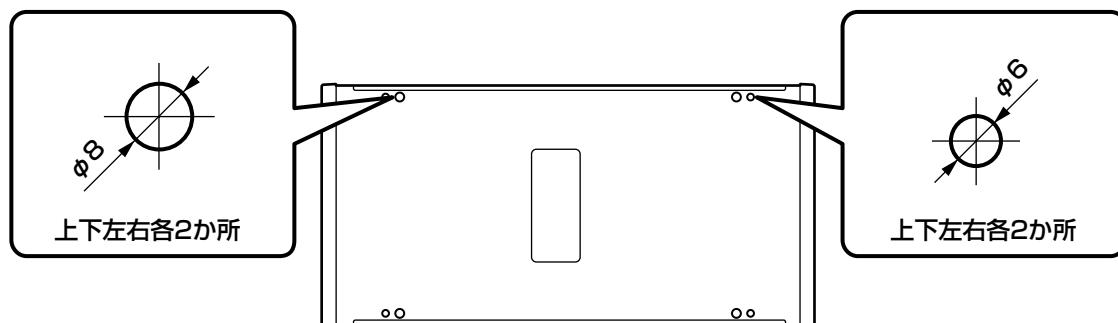
壁面に取り付ける場合

型紙を使用して高さを決める

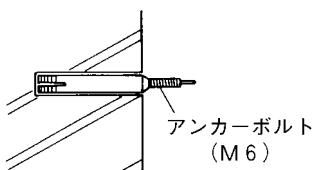
- 付属の型紙幅から左右それぞれ30 cm以上の空間が確保できる壁面に、非常起動スイッチの位置が床面から1.1 m～1.5 mの高さになるように貼る（上部取付孔の位置を床面から99.5 cm～1.52 mにします）



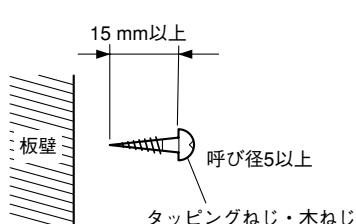
- 型紙に合わせて4か所の取付孔をあけ、後施工アンカーを打ち込む



[アンカーボルトを使用するとき]



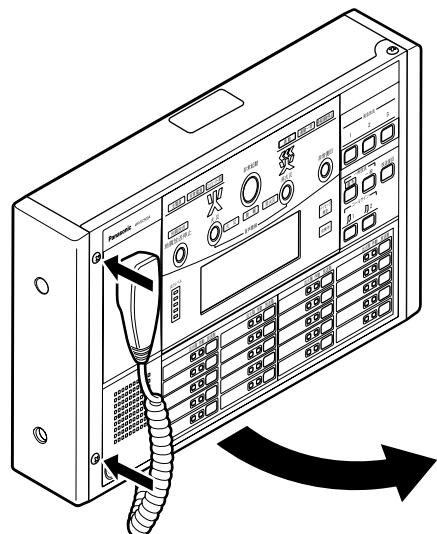
[タッピングねじ・木ねじを使用するとき]



●アンカーボルト、タッピングねじ、木ねじの引き抜き強度は1本あたり50 kgf以上を確保してください。

設置のしかた

3 操作パネルのねじを外し、操作パネルを開く



4 通線口を開ける

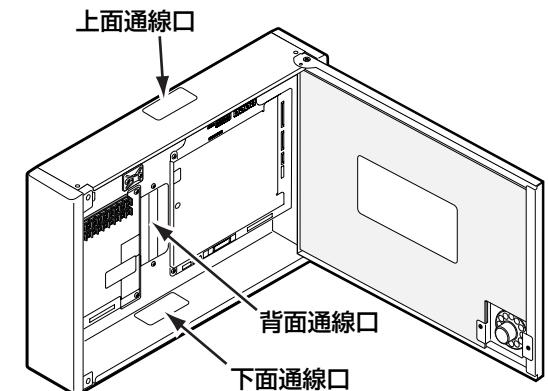
底面から引き込むときは、底面の通線口カバーを外します。

設置・工事

上下面から引き込むときは、上下面の通線口をペンチなどで両端を押して上下させ、ねじって外します。（上下面の通線口はノック形状になっています）

外した通線口の端面でケーブルを傷つけないように、付属のグロメットを端面に取り付けます。

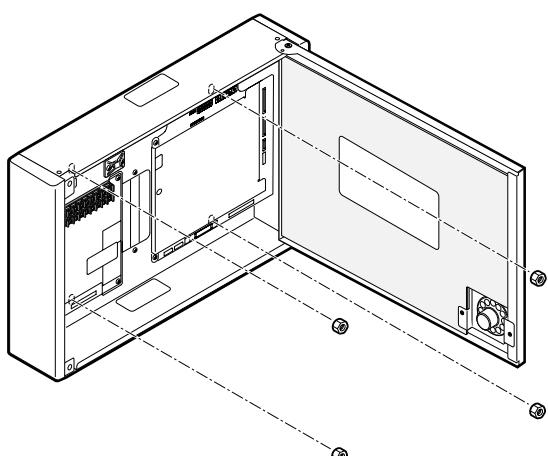
通線口をあけるときやグロメットを取り付けるときには、端面だけがをしないように注意して作業してください。



5 本機を壁面に取り付ける

壁面に打ち込んだ後施工アンカーに本機の取付孔を掛けて乗せ、ナットで固定します。

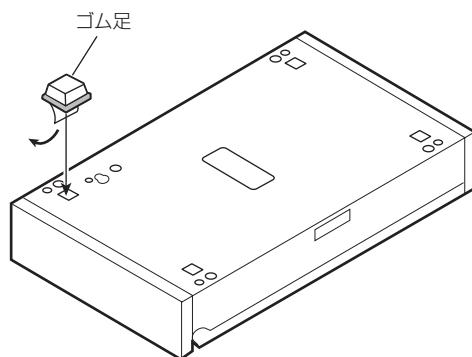
めねじタイプを使用したときは、上側2か所にボルトを仮止めして、本機の取付孔に掛けてから本締めして固定します。



卓上に置く場合

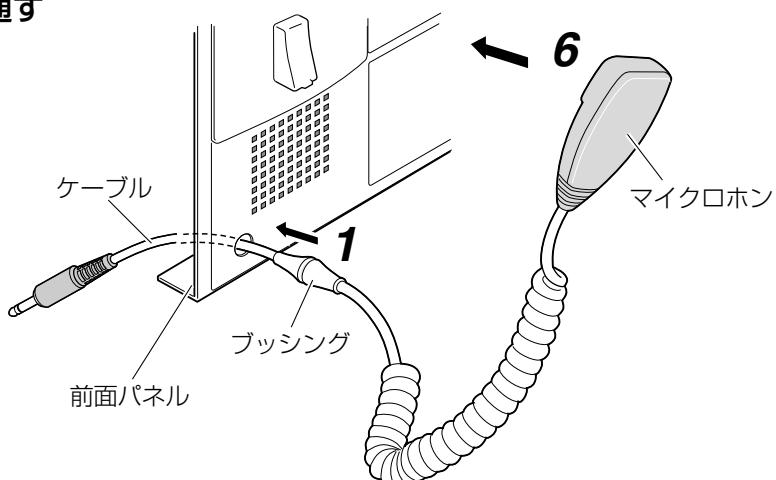
ゴム足を取り付ける

本機を裏返して、付属品のゴム足を取り付けます。



本体マイクロホンの接続

1 プラグを孔から差し込んで後面へ通す



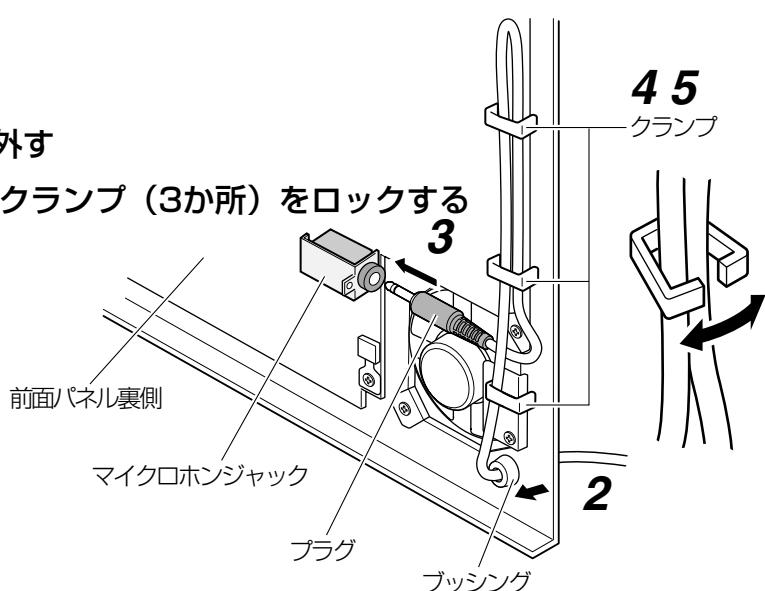
2 ブッシングをパネルにはめ込む

3 プラグをジャックに挿入する

4 コードクランプ（3か所）のロックを外す

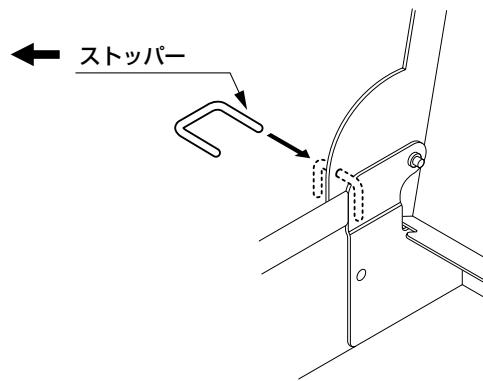
5 ケーブルを図のように束線し、コードクランプ（3か所）をロックする

6 マイクロホンをマイクドアに固定する



パネルストッパーの使用について

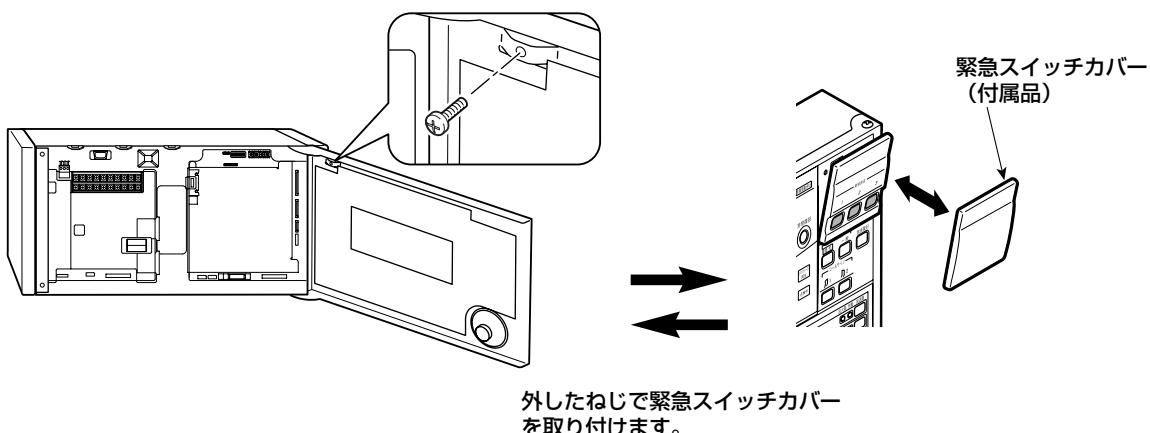
卓上型として設置したとき、ケーブル接続などの作業中に開けた前面パネルが誤って閉じてけがをしないように、付属のパネルストッパーをパネル面の孔に挿し込んで、前面パネルが閉じないようにしてください。



使用後、パネルストッパーは収納していた袋に入れて、動かないようにテープ止めして本機内部に収納するか、手元に保管してください。

緊急放送スイッチを使用しない場合

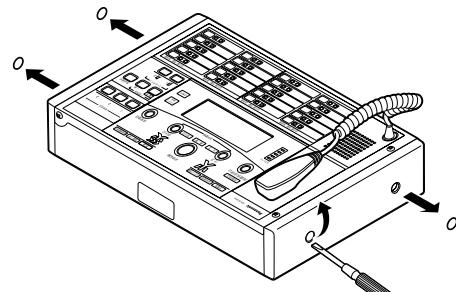
緊急放送スイッチを使用しない場合は、パネルスイッチを外して付属の緊急スイッチカバーに取り換えて、緊急放送スイッチをとることができます。



ラックに取り付ける場合

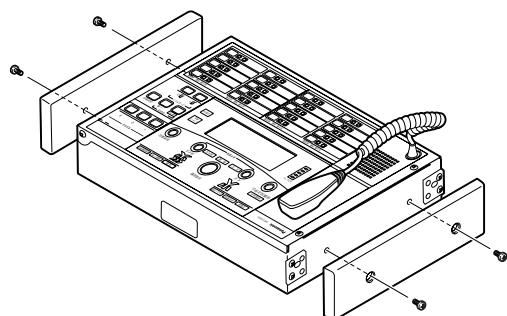
1 本機のねじ孔隠しキャップを外す

ねじ孔隠しキャップの切り込み溝にマイナスドライバー（先端幅5 mm）を挿し込み、持ち上げて外します。

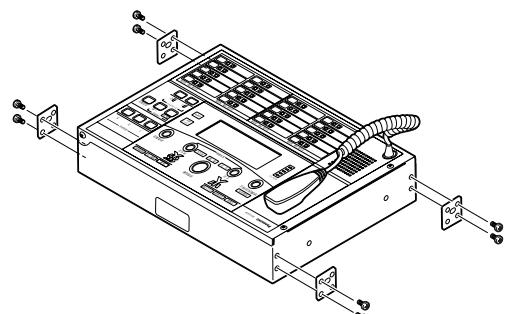


2 本機の側板を外す

ねじを外し、側板を取ります。

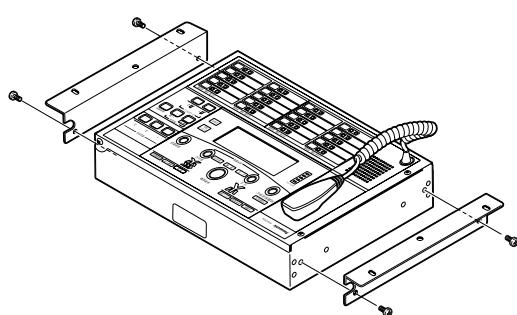


3 側面につけている金具のねじを外して、金具をすべて取り外す



4 付属のラックアングルを付属のねじ（外歯付M4×8）で取り付ける

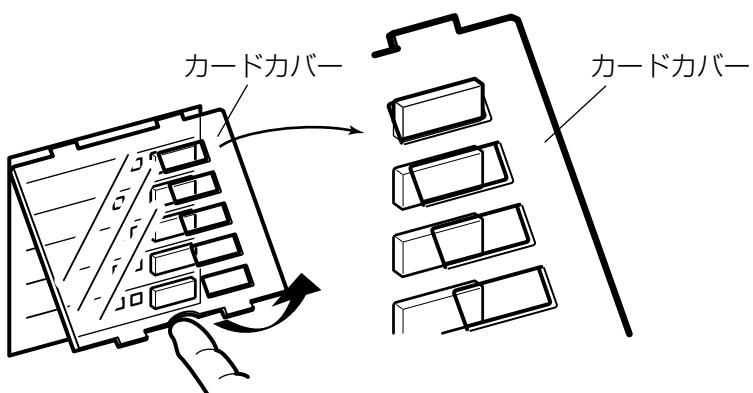
締め付けトルクは1.1 N·m～1.25 N·m {11 kgf·cm～13 kgf·cm} です。



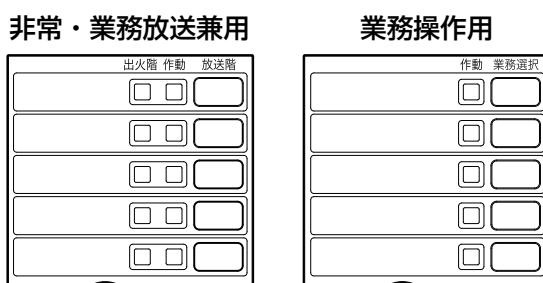
表示カードの記入

放送階選択スイッチには、各スピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入する表示カードが付いています。

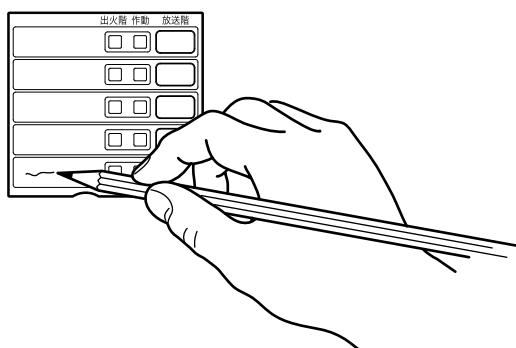
- ・カードカバーは、下側中央の溝に爪をかけ、持ち上げながら手前に引くと外れます。



- ・表示カードには非常・業務放送兼用（出荷時にパネル面に装着）と業務操作用（付属品）があります。使用用途に合ったカードに記入します。



- ・表示カードに、スピーカーの設置場所やブロック指定した場所を記入します。



- ・記入が終わりましたら、表示カードとカードカバーを元どおり本機に取り付けます。

接続のしかた

非常用放送設備本体（WL-8000A／8500A、WL-8000/8500）との接続線

- 必ず消防用認定耐熱対形ケーブル（ペア線）を使用してください。
消防用認定耐熱対形ケーブルを使用しないときは、HIV耐熱線+金属管工事が必要です。
- 接続する距離に応じて、線径およびペア数を決めます。
ペア数はデータ線の接続方式と電源線の接続距離および停電時に緊急放送や業務放送の有無で決まります。

① 電源線の線径とペア数

電源線のペア数（DC24 Vと0 Vで1ペア）は、電圧降下による動作不具合を防止するため、非常リモコンの局数と接続距離から線径とペア数を規定しています。規定範囲外の場合、正常に動作しない場合があります。

電源の距離と線径、ペア数（○印：DC24 V／0 Vの1ペアを表す）

非常リモコン 局数	線路抵抗 (往復) Ω以下	接続可能距離と線径											
		50 m以下		100 m以下			200 m以下			500 m以下		1000 m以下	
		φ0.9 mm	φ1.2 mm	φ0.9 mm	φ1.2 mm	φ1.6 mm	φ0.9 mm	φ1.2 mm	φ1.6 mm	φ1.2 mm	φ1.6 mm	φ1.2 mm	φ1.6 mm
20	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4ペア	2ペア
40	7.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5ペア	3ペア
60	6.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3ペア	2ペア
80	5.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6ペア	4ペア
100	4.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4ペア	2ペア
120	4.4	○	○	○	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	○	8ペア	5ペア
140	4	○	○	○	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	○	8ペア	5ペア
160	3.6	○	○	○	2ペア	○	○	4ペア	2ペア	○	○	5ペア	4ペア
180	3.3	○	○	○	2ペア	○	○	4ペア	2ペア	2ペア	○	10ペア	6ペア
200	3.1	○	○	○	2ペア	2ペア	○	4ペア	3ペア	2ペア	6ペア	11ペア	6ペア
220	2.9	○	○	○	2ペア	2ペア	○	4ペア	3ペア	2ペア	6ペア	11ペア	7ペア
240	2.7	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	5ペア	3ペア	2ペア	6ペア	12ペア	5ペア
260	2.5	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	5ペア	3ペア	2ペア	7ペア	13ペア	5ペア
280	2.4	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	5ペア	3ペア	2ペア	7ペア	14ペア	8ペア
300	2.2	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	5ペア	3ペア	2ペア	7ペア	14ペア	8ペア
320	2.1	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	6ペア	3ペア	2ペア	8ペア	15ペア	8ペア
340	2	2ペア	○	○	3ペア	2ペア	○	6ペア	4ペア	2ペア	8ペア	16ペア	8ペア



- 電線・ケーブルには、耐用年数があります。機器を新設・リニューアルする際は、既設ケーブルの劣化状態を確認し、継続使用の可否をご検討ください。
- 既設の使用年数と、今後の使用予定年数を合算した年数が、15~20年を超えるときは、電源線・ケーブルを交換してください。

【設置時の確認方法】

非常リモコンの一斉放送（優先）スイッチを押し、システムを一斉放送状態にします。
この状態で、非常リモコンの端子台DC24 V入力端子ー0 V端子間の電圧を測定し、DC21 V以上あることを確認します。電源電圧が20 V以下の場合は、線路抵抗が大きい、または電源容量が不足しています。
接続した電源線の線径・ペア数やシステムの電源制御ユニット（WU-L62）の台数を、再度ご確認ください。

① 信号線の線径とペア数

信号線はデータ線、制御線、音声線×2の4ペアを接続します。接続距離で線径が変わります。
停電時に緊急放送や業務放送を行うときは、さらに1ペア追加します。

接続距離	500 m以下	1000 m以下
線径	φ0.9 mm以上	φ1.0 mm以上

② データ線の総延長距離が1000 mを超える接続の場合

データ（DATA）線の総延長距離が1000 mを超える場合、6P接続方式により接続を行います。このとき、制御線を1ペア追加します。

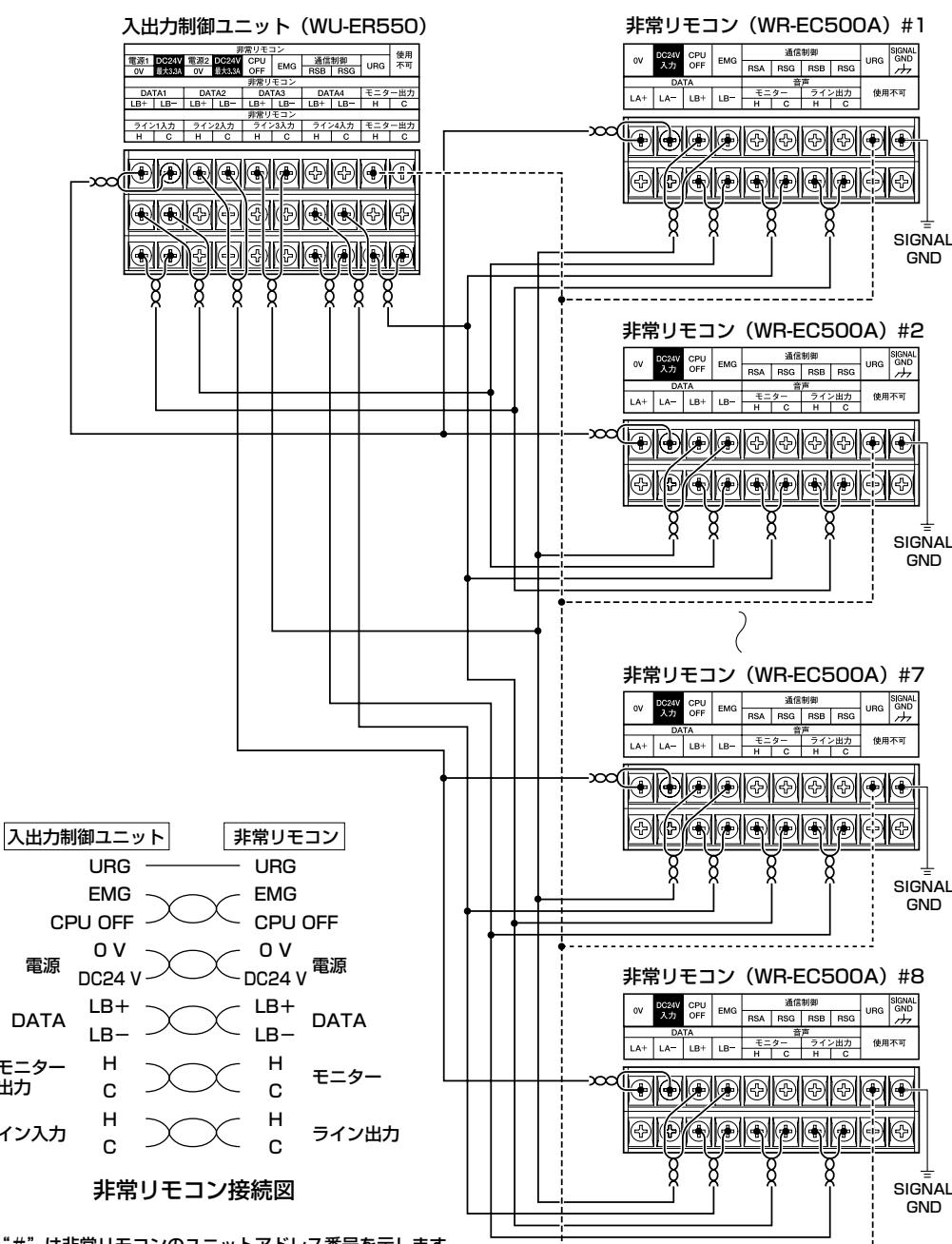
アース線の接続と先端処理

- 壁掛け／卓上で使用する場合は、内部端子台のSIGNAL GND端子でアースをとってください。（→42、50ページ）
- アース線の先端には、丸端子を取り付けて先端処理を行ってください。丸端子はJIS-C2805 RAV1.25-4（適用電線断面積0.25 mm²～1.65 mm²）に適合するものをご使用ください。

ラック形非常用放送設備との接続

データ線の総延長距離が1000 mまでの場合（5P接続方式）

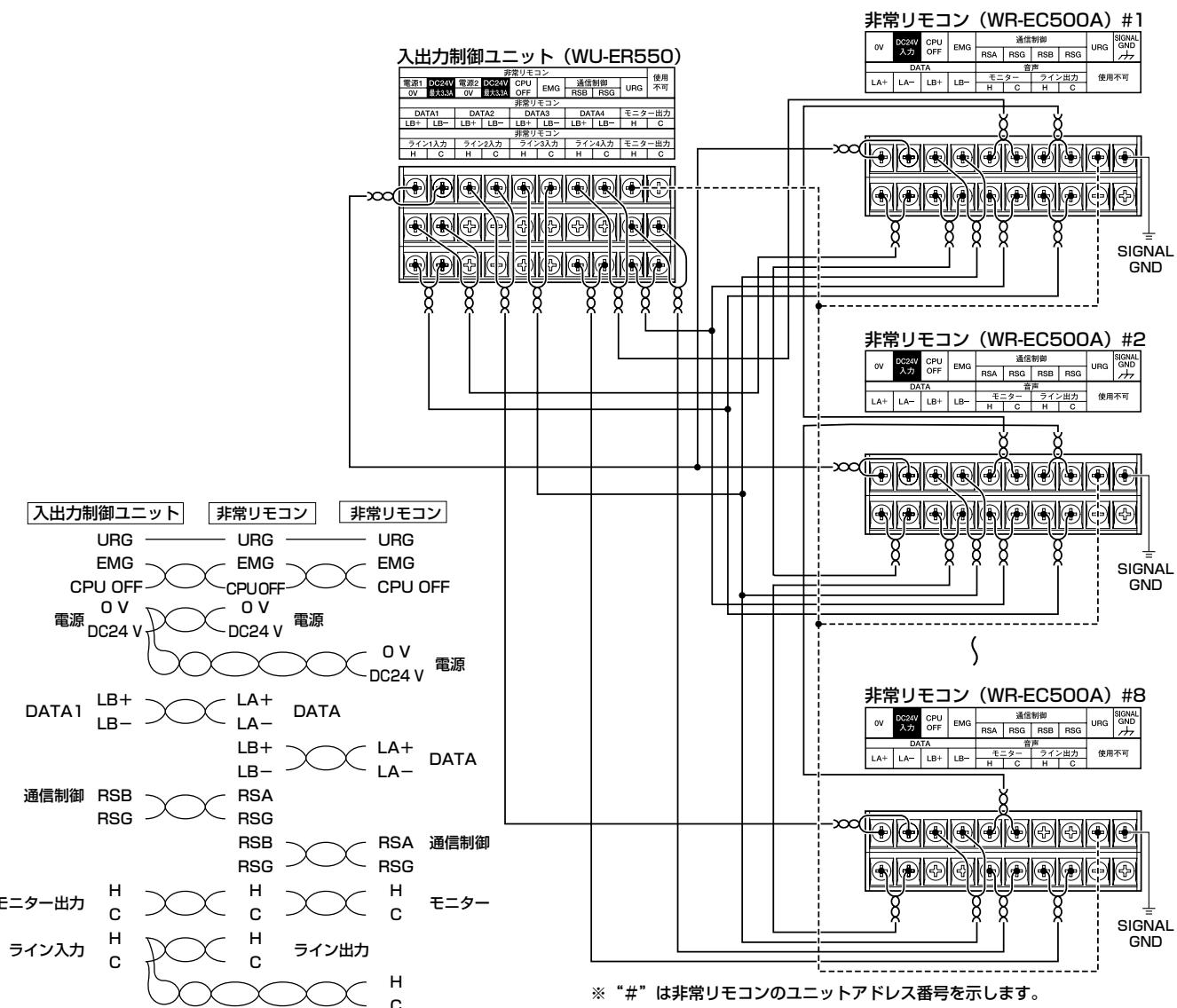
- 本体側の入出力制御ユニット（WU-ER550）の非常リモコン端子へ接続します。
- データ線、音声線はそれぞれ、DATA1～4、ライン1～4へ接続します。1端子当たり非常リモコン2台まで接続できます。
- 電源線は、電源1、2へ接続します。ただし、本体側から供給できる電源の容量から接続台数に制限があります。また、システムの規模によっては非常リモコン側に外部電源が必要です。詳細は、WL-8000A/8500A 工事説明書 設置工事編をお読みください。
- 本接続例では、緊急放送を行うため、URG端子間を接続しています。（----- 接続部分）。
- 停電時に緊急放送または業務放送を行わない場合には、URG端子の接続は不要です（----- 接続部分）。



●接続後、ユニットアドレスの設定を必ず行ってください。重複がないように設定してください。

データ線の総延長距離が1000mを超える場合（6P接続方式）

- データ線、音声線はそれぞれDATA1、ライン1に4へ2台ずつ接続します。
- データ線は、前段のLB土を次段のLA土へと順番に接続していきます。
- 通信制御線は、前段のRSBを次段のRSAへと順番に接続していきます。
- 電源線は、電源1、2へ接続します。ただし、本体側から供給できる電源の容量から接続台数に制限がでます。また、システムの規模によっては非常リモコン側に外部電源が必要です。詳細は、WL-8000A/8500A 工事説明書 設置工事編をお読みください。
- 本接続例では、緊急放送を行うため、URG端子間を接続しています（-----接続部分）。
- 停電時に緊急放送または業務放送を行わない場合には、URG端子の接続は不要です（-----接続部分）。



- 接続後、ユニットアドレスの設定を必ず行ってください。重複がないように設定してください。

接続のしかた

増設用操作ユニットの接続 WK-EX510/EX520, WR-EX510/EX520

- ・非常リモコンに接続できる増設用操作ユニットは16台までです。
- ・設置方法によってユニットを選択します。卓上および壁面設置の場合はWR-EX510/EX520を、ラックマウントの場合はWK-EX510/EX520を使用します。

接続のしかた

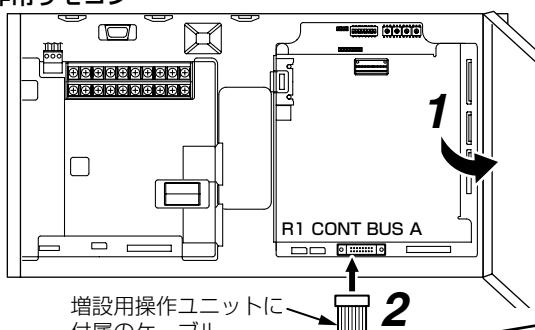
- 1** 非常リモコンの前面パネルと連結した増設用操作ユニットの前面パネルを開ける
- 2** 増設用操作ユニットに付属のケーブルを本機のコネクタープラグ (R1 CONT BUS A) に挿し込む
- 3** 接続したケーブルを通線口から増設用操作ユニット側のコネクタープラグ (F1 CONT BUS A (IN)) に挿し込む



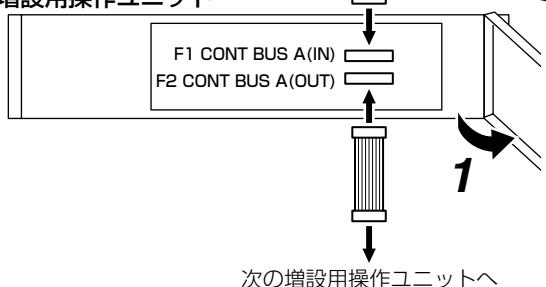
- ケーブルのコネクターソケットの突起をコネクタープラグ上側の切り欠きと合わせます。
その後、コネクタープラグのロックレバーが「カチッ」と音がして閉じるまで、コネクターソケットを挿し込みます。

接続する増設用操作ユニットが複数台ある場合、同様に操作ユニットに付属のケーブルで増設用操作ユニットのコネクタープラグ間 (F2 CONT BUS A (OUT) → F1 CONT BUS A (IN)) を接続します。

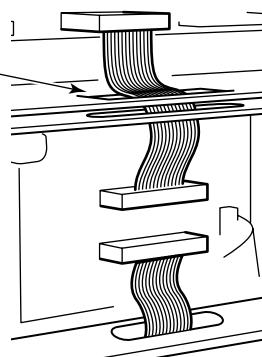
非常リモコン



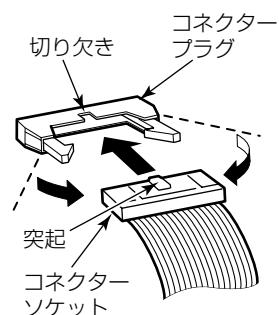
増設用操作ユニット



2 通線口を通す



3 コネクターソケットの突起と コネクタープラグの切り欠き を合わせ、ロックレバーが 「カチッ」と音がして閉じる まで挿し込む

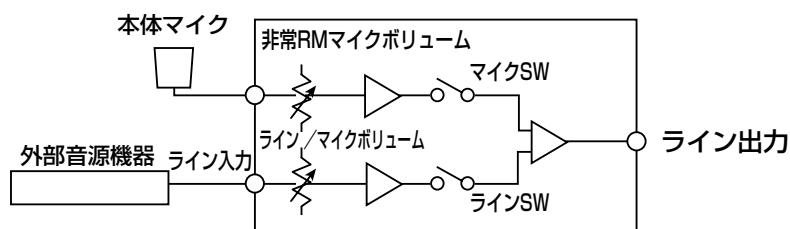


ライン入力の接続

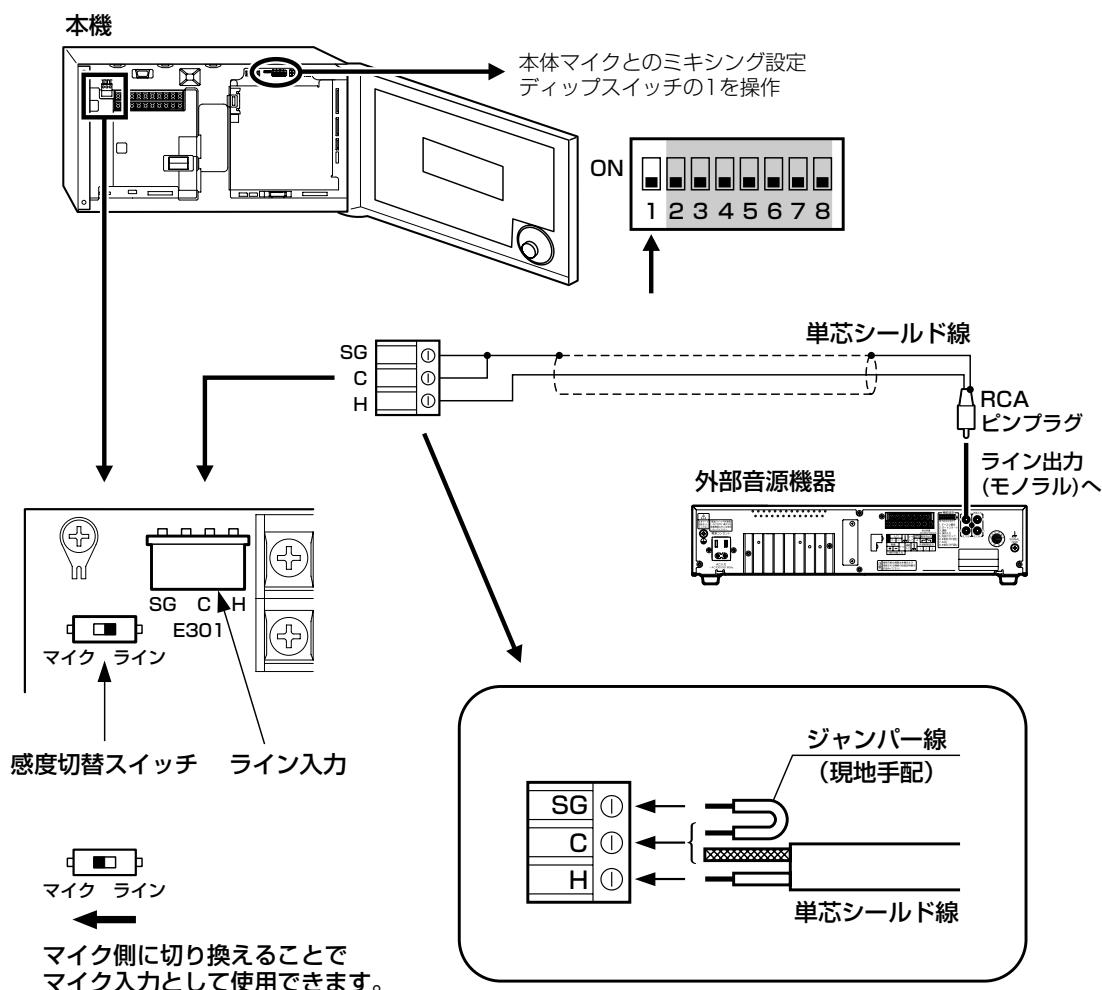
外部音源機器の放送を行うときは、外部音源機器のライン出力を本機のライン入力に接続します。

ライン／本体マイクミキシング機能について

ライン入力は、非常リモコンの本体マイクとミキシングされて放送されます。本体マイク放送時にライン入力の音声を止めるときは、ディップスイッチの1をONにします。



感度切替スイッチをマイク側にすると、マイク入力として使用することができます。



- 非常放送、地震放送、緊急放送時、ライン入力から入力した音声は無効となり放送を行うことはできません。

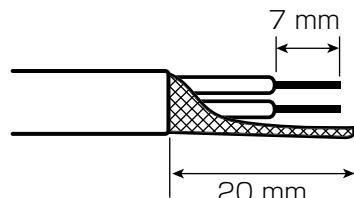


接続のしかた

ライン入力コネクターへの配線

1 シールド線の被覆を右図のように加工する

非常リモコンのライン入力は平衡入力です。(2芯シールド線を使用します。)

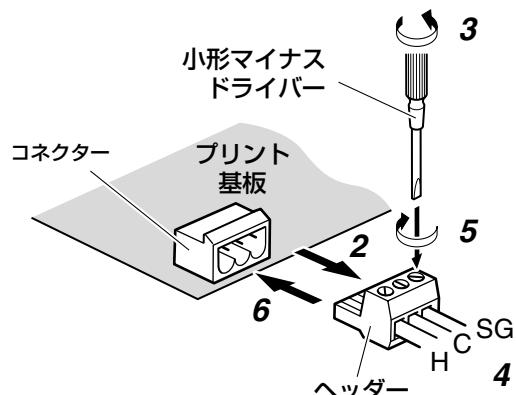


2 ヘッダーをコネクターから取り外す

3 ヘッダーのねじ3本をゆるめる

4 ヘッダーに線材を挿入する

ケーブルの導体部が出ないように挿し込みます。



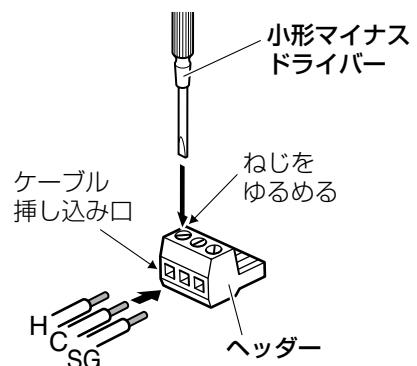
5 ねじを締める

ねじの締め付けトルク : 0.5 N · m ~ 0.6 N · m

{5 kgf · cm ~ 6 kgf · cm}

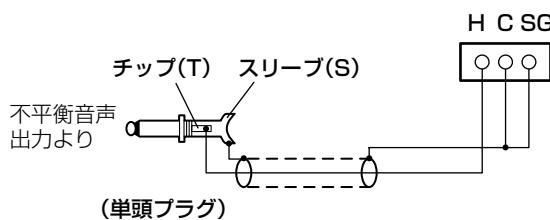
ドライバーは刃先幅が3 mmのマイナスドライバーを使用します。

6 ヘッダーをコネクターに取り付ける



・不平衡出力機器の接続

不平衡出力の機器と接続するときは、図のように配線します。



※单頭プラグスリーブのシールド線をSGに接続し、C (コールド) とSG (シグナルグラウンド) を接続します。



※ピンプラグからのシールド線とSGを接続し、C (コールド) とSG (シグナルグラウンド) を接続します。

外部電源の接続

- システム規模により非常用放送設備本体から供給できる電源容量を超えるときは、本機側で外部電源を接続する必要があります。
- 外部電源は、非常リモコン1台につき下表の機種が必要となります。

非常リモコンの用途	電源制御ユニット WU-L62	非常電源ユニット WP-570B	蓄電池 (NCB-350)
非常放送用	1台	1台	1個
緊急放送／業務放送用		1台	1個

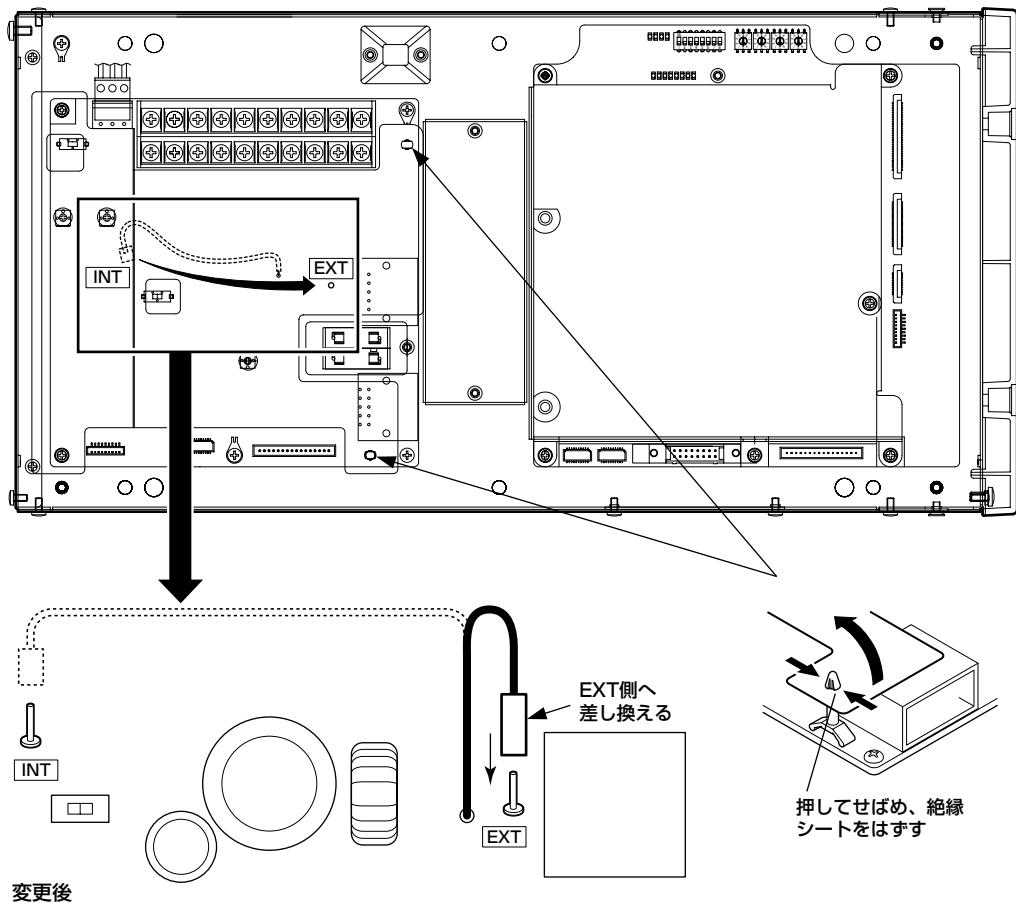
- 本機側に外部電源を接続するときは、内部のジャンパー線の切り換えが必要です。

memo • 本体の非常リモコン用電源から供給可能な台数は、システムの規模により制限があります。外部電源の必要条件については、WL-8000A/8500A 工事説明書 設置工事編をお読みください。

ジャンパー線の設定

下図矢印箇所のサポートのかさをせばめて、基板面をおおっている絶縁カバーをはずしてめくります。本機アナログ基板上のジャンパー線を、下図のようにINT（出荷時）から、EXTへ接続を変更します。

本機のパネルを開いた図

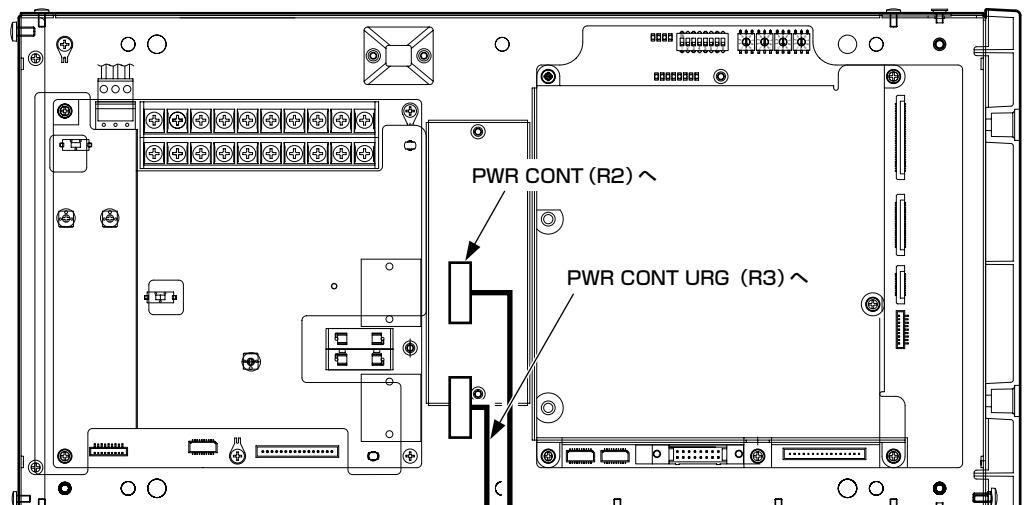


接続のしかた

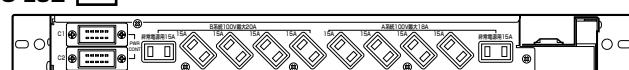
接続のしかた

- 外部電源用の電源制御ユニットは、本機のPWR CONT (R2) に接続します。
- 非常放送用非常電源ユニットは、電源制御ユニットのPWR CONT C1へ接続、渡りで配線するようにします。
- 緊急、業務放送用の非常電源ユニットは、非常リモコンのPWR CONT URG (R3) に接続します。

本機のパネルを開いた図

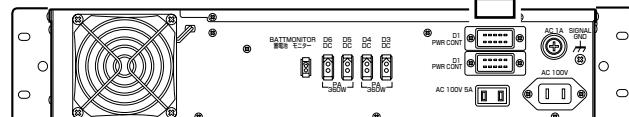


電源制御ユニット WU-L62



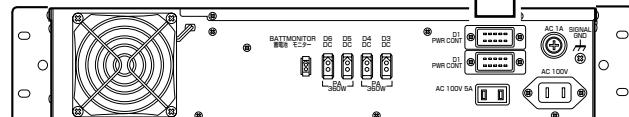
非常放送用

非常電源ユニット WP-570B



緊急放送/
業務放送用

非常電源ユニット WP-570B



機器設定

機器内部の設定

本機前面パネルの左側ねじ2本を外し、パネルを開きます。

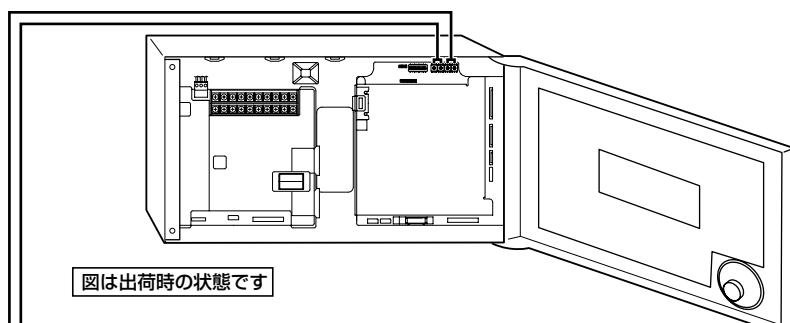
機器内部の設定内容は、以下のとおりです。

- ユニットアドレスの設定
- ディップスイッチの設定
- ライン入力の感度設定
- 通信の終端抵抗設定

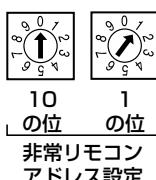
ユニットアドレスの設定

アドレス設定には、下記の2種類があります。

- システムに接続できる8台のユニットを識別するためのユニットアドレスを設定
- 放送階選択スイッチ10局、20局シフト機能を利用するため、本体のどの増設用操作ユニットの放送階選択スイッチを非常リモコンの放送階選択スイッチ20局に割り当てるかを設定



図は出荷時の状態です



10
の位
1
の位
非常リモコン
アドレス設定

ユニットアドレス設定(1~8)

	10の位	1の位
1台目(出荷時設定)	0	1
2台目	0	2
3台目	0	3
4台目	0	4
5台目	0	5
6台目	0	6
7台目	0	7
8台目	0	8

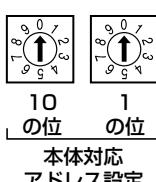
- 非常リモコンのユニットアドレスを設定します。（最大8台）

※重複がないように設定してください。

本体側の入出力制御ユニットの各DATA端子に接続される非常リモコンのユニットアドレスの組み合わせは自由です。

※10の位は「0」に固定して使用します。

※6P接続方式を行う場合、接続端子はDATA1固定です。



10
の位
1
の位
本体対応
アドレス設定
(スイッチシフト)

本体対応ユニットアドレス設定(0~16)

	10の位	1の位
非常操作ユニット (出荷時設定)	0	0
増設用操作ユニット1	0	1
増設用操作ユニット2	0	2
増設用操作ユニット3	0	3
増設用操作ユニット4	0	4
増設用操作ユニット5	0	5
増設用操作ユニット6	0	6
増設用操作ユニット7	0	7
増設用操作ユニット8	0	8
増設用操作ユニット9	0	9
増設用操作ユニット10	1	0
増設用操作ユニット11	1	1
増設用操作ユニット12	1	2
増設用操作ユニット13	1	3
増設用操作ユニット14	1	4
増設用操作ユニット15	1	5
増設用操作ユニット16	1	6

- 本体側の増設用操作ユニットの放送階選択スイッチを非常リモコンの放送階選択スイッチに割り当てるときに設定します。

- アドレスは、割り当てる本体側の増設用操作ユニットのアドレスと同じにします。

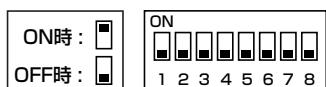
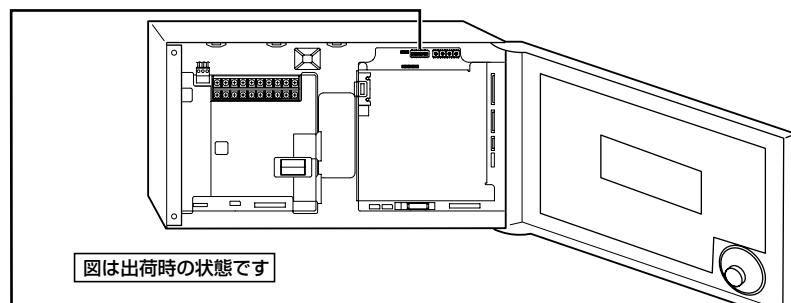
- 通常はアドレスを（0.0）とし、本体側の非常操作ユニットの放送階選択スイッチを非常リモコン側に割り当てます（出荷時設定）。



- 非常リモコン側には必ず非常選択スイッチを設けてください。すべてが業務選択スイッチになる設定は行わないでください。
- ユニットアドレスの設定は、システムの電源投入時に認識されます。変更したときは、システムの電源を「切」→「入」してください。

ディップスイッチの設定

- 本体マイクとライン入力のミキシング機能をディップスイッチで設定します。
- ディップスイッチの設定は、設定後にユニットを再起動することにより機能が有効になります。



No	機能	ON	OFF(出荷時設定)
1	非常リモコンマイク・ ラインミキシング機能	ミキシング無効	ミキシング有効
2	使用しない	—	固定
3	使用しない	—	固定
4	本体選択	WL-8000/WL-8500	WL-8000A/WL-8500A
5	使用しない	—	固定
6	使用しない	—	固定
7	使用しない	—	固定
8	使用しない	—	固定

・非常リモコンの本体マイク・ラインミキシング機能
ライン入力の音声を非常リモコンの本体マイク放送時に
ミキシング放送するかしないかを設定します。

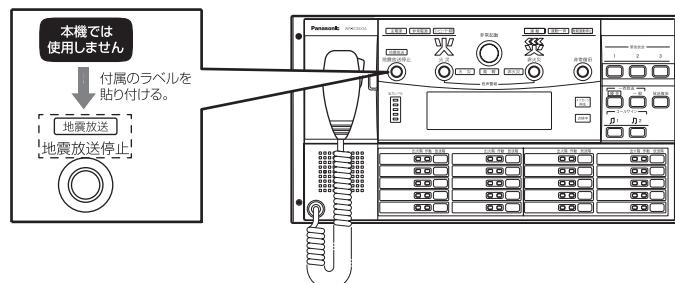
No.4：本機を接続する本体を設定します。
※No2、3、5～8はOFFに固定して使用してください。



- ディップスイッチの設定は、システムの電源投入時に認識されます。変更したときは、システムの電源を「切」→「入」してください。



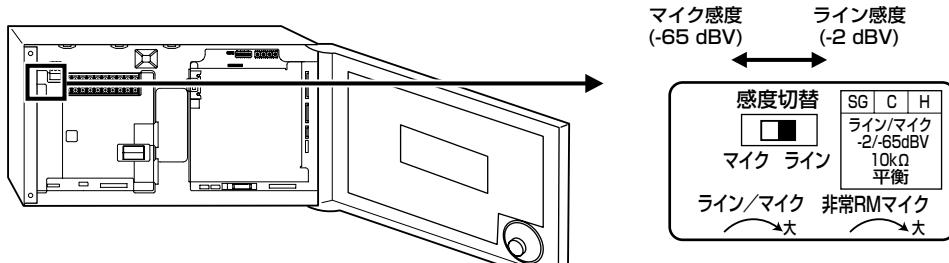
- 本機をWL-8000/8500シリーズに接続する場合
 - 本機は、WL-8000、WL-8500（緊急地震放送非対応品）に接続し、WL-8000、WL-8500の非常リモコンとして使用できます。
 - WL-8000、WL-8500に接続する場合は、ディップスイッチのNo.4を「ON」に設定してください。
 - WL-8000、WL-8500に接続した場合は、本機の地震放送表示灯、地震放送停止スイッチは動作しないので、付属の「本機では使用しません」ラベルを本機のパネル面の「地震放送」表示灯、「地震放送停止」スイッチの名称表示の上に表示が隠れるように貼り付けてください。



ライン入力の感度設定

入力感度をライン／マイクで切り替えます。

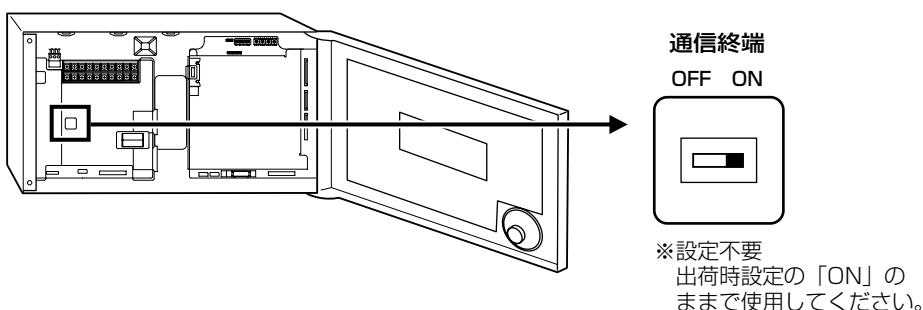
- 出荷時はラインに設定されています。



・出荷時は、ラインに設定されています。

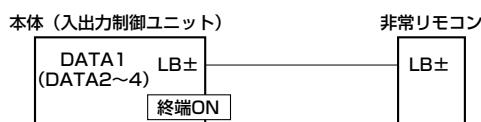
通信終端の設定

通信終端の設定は「ON」固定で使用します。

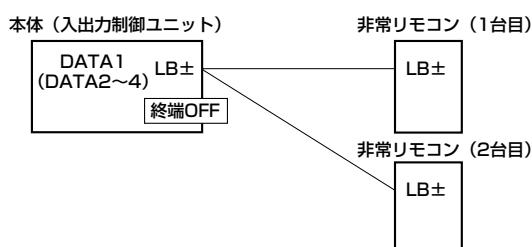


接続形態と通信終端の設定条件

- 5P接続方式 1対1で接続する場合、入出力制御ユニットの通信終端をONにします。



- 5P接続方式 1対2で接続する場合、入出力制御ユニットの通信終端をOFFにします。



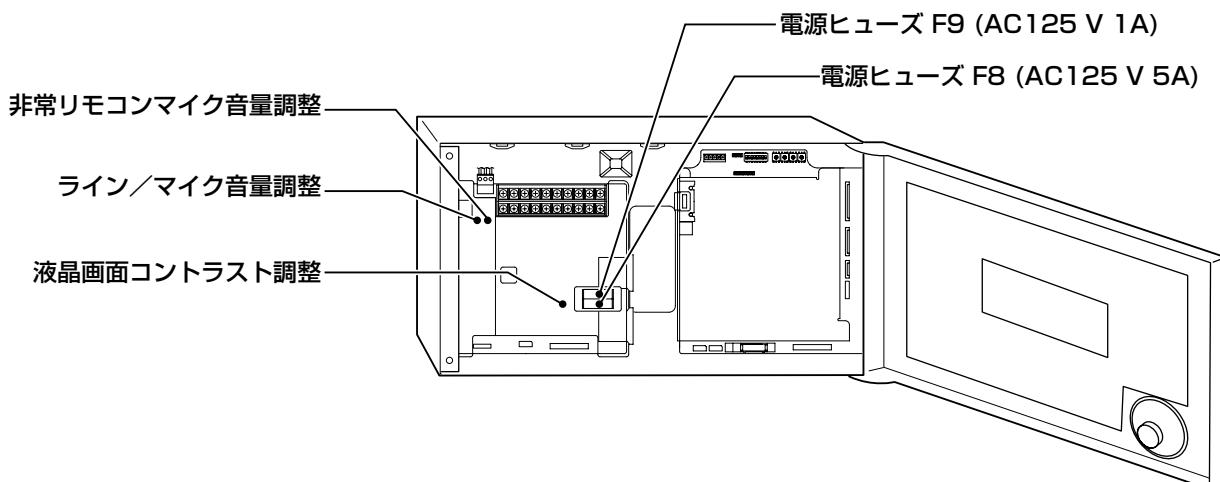
- 6P接続方式の場合、入出力制御ユニットの通信終端をONにします。



機器内部の調整

機器内部の調整内容は、以下のとおりです。

- ・非常リモコンの本体マイク音量調整
- ・ライン入力の音量調整
- ・液晶画面のコントラスト調整
- ・電源ヒューズ



音量調整

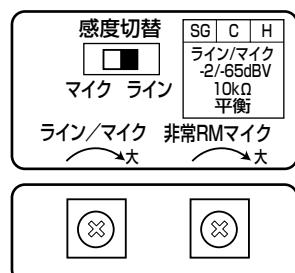
- ・非常リモコンマイク音量調整

非常リモコンの本体マイクの音量を調整します。時計方向（右回り）に回すと、音量が増大します。

反時計方向（左回り）に回すと音量を小さくできますが、完全にOFFにすることはできません。出荷時に調整されています。

- ・ライン／マイク音量調整

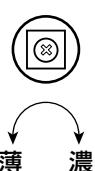
ライン入力の音量を調整します。反時計方向（左回り）に回すと、音量が下がります。出荷時は最大に設定してあります。入力音声のレベルに合わせて調整してください。



液晶画面コントラスト調整

時計方向（右回り）に回すと、液晶画面が濃くなります。

液晶画面コントラスト調整

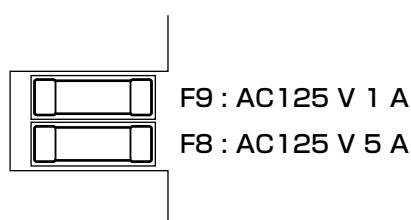


電源ヒューズ

本機には2つの電源ヒューズが内蔵されています。

電源ヒューズF9 (AC125 V, 1 A) : 非常リモコン内に供給する電源を保護します。

電源ヒューズF8 (AC125 V, 5 A) : 非常リモコンから、増設用操作ユニットに供給する電源を保護します。



設置時の点検

接続点検

接続のあと、システムの電源を投入するまえに再度配線・接続を点検してください。

- ・本機と本体の入出力制御ユニット間のケーブル接続に、接続ミスや配線忘れはありませんか？
➡データ線の接続には、接続方法に応じて制約事項があります。
➡停電時の緊急放送や、電源の増設などの追加接続が必要な場合があります。
- ・本機に接続されている増設用操作ユニットのユニットアドレスは設定されていますか？
➡システムに接続された全ユニットに、ユニットアドレスの設定が必要です（→57ページ）。
- ・ディップスイッチは正しく設定されていますか？

電源投入と点検

非常用放送設備本体の工事説明書「設置工事編」の「調整と動作確認」の「電源投入と点検」にしたがって、システムの電源を投入します（外部電源接続をしている場合、非常リモコン側に接続されている電源制御ユニット（WU-L62）のブレーカーをONします）。

1 本機の操作パネル上の主電源表示灯が点灯しているか確認する

本機にDC24 V電源が供給されると主電源表示灯が点灯します。

2 操作パネルの非常電源表示灯が緑色に点灯しているか確認する

ユニット内で使用している回路電源電圧が正常の場合、緑色に点灯します。
電圧が低い場合は赤色に点灯します。

ただし電源制御ユニットのブレーカーが「切」の状態（主電源表示灯が消灯）の場合は、非常電源ユニット（WP-570B）からの回路電源供給の状態を示しています。赤色点灯または消灯の場合、非常電源ユニット側に異常がある可能性があります。

※非常電源ユニットの蓄電池の充電が十分でないとき、赤色に点灯する場合があります。この場合、異常ではありません。

3 外部電源接続をしている場合、接続されている非常電源ユニット（WP-570B）の蓄電池スイッチを「入」にして、非常電源ユニットの非常電源表示灯（状態により緑、橙、赤に点灯）で電圧を確認する

※非常電源ユニットの点検方法については、「電源の点検」（→68ページ）をお読みください。



- 本体側の非常操作ユニットで書き込み設定が終わるまでは、本機の液晶画面に下記の表示がされます。
これは書き込み設定されていないことが原因です。設置後は必ず本体側で「システム構成登録」を行ってください。

〈本体 通信異常
復旧するまで
操作が受け付けられません〉

設定後の初期動作確認

電源立ち上げ状態の確認

システム構成などシステムの初期設定終了後、電源制御ユニット（WU-L62）のブレーカーをいったん「切」にしたあと再度「入」にして、本機を立ち上げ、以下の確認をします。

液晶画面に起動処理中画面が表示されたのち、起動完了画面が表示されます。

起動処理中

※WR-EC500Aの下の「V2.00」は非常リモコンのソフトウェアのバージョンを示しています。

非常用放送設備 WR-EC500A
V2.00

正常に認識できた場合、待機画面が表示されます。

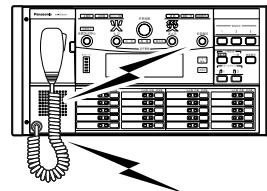
待機画面

システム設定データと実際のシステム構成に違いがある場合や、ユニットの異常や接続の問題でユニットが正しく認識されない場合に、液晶画面右下に「エラー」が表示されます。

本体側と通信できない場合、液晶画面に「<本体 通信異常>」が表示され、ブザー音が鳴ります。

※ケーブルの未接続、本体へのアドレスの未登録などが考えられます。

<本体 通信異常>
復旧するまで
操作が受け付けられません
エラー



- エラーの詳細は、マイクドア内のエラースイッチを押して確認できます。
- ブザー音は、マイクドア内のブザー停止スイッチで止めることができます。ただし、「エラー」表示は、エラーの原因が解消されるまで表示されます。
- エラーが発生した場合は、「エラー表示について」(→69ページ)をお読みください。
- システムの設定が正しくされていても、システムの電源を投入した際に、<本体 通信異常>が出る場合があります。
これは、非常用放送設備本体と非常リモコン側とで電源投入時のタイミングのずれが原因で起こります。
問題がなければ、しばらく表示がされたあと、通常の待機画面が表示されます。

動作確認

設置後の初期動作確認、書き込み設定が終わったあと、システム全体の動作確認を行います。

システムの設定表を手元に準備し、放送先など設定どおりに放送されるかどうかを確認します。

ここでは、設置工事直後の動作確認を説明しています。動作確認では、警報メッセージも放送されますので、事前に周囲へ知らせるなど、十分に注意した上で、実施してください。

非常放送の動作確認

手動起動の確認（例：発報火災設定が「発報放送」の場合）

1 本機の非常起動スイッチを押す

2 放送階選択スイッチを押す

- ・ 対応する階別作動表示灯と、同一出火階の階別作動表示灯が点灯することを確認
- ・ 連動表示灯が点灯している場合、連動階の階別作動表示灯も点灯することを確認

《手動非常起動》
放送階選択スイッチを押せ

3 発報放送が設定された放送先に放送されるか確認する

4 非常復旧スイッチを押して終了する

5 すべての放送階選択スイッチ（非常／業務兼用スイッチに設定）について確認する

※この動作確認は、本機の接続を主に確認することを目的にしているため、感知器起動、発信機起動の確認は省略します。

緊急放送の動作確認

緊急放送スイッチによる放送の確認

1 緊急放送スイッチ（1～3のいずれか）を押す

2 ほかの放送が遮断される

- ・ 内蔵メッセージ再生の設定の場合、内蔵メッセージが再生されることを確認

《緊急放送中》
緊急放送スイッチ1
マイク放送→マイクスイッチ
放送先変更→放送階スイッチ

3 本体マイクで放送する

- ・ あらかじめ設定された放送先に放送されることを確認

4 放送復旧スイッチを押し、放送を終了する

5 ほかの緊急放送スイッチについても同様に確認する

設定時の点検

業務放送の動作確認

手動による業務放送の確認

1 放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押す

2 本体マイクで放送する

- ・あらかじめ設定された放送先に放送されることを確認

3 放送復旧スイッチを押し、放送を終了する

**4 ラインに機器が接続されている場合、放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押して、
ラインの音声が放送されることを確認する**

**5 ほかの放送階選択スイッチ、業務選択スイッチについても
同様に確認する**

『業務放送中』
非常RM

点検モードによる運用点検

本体の運用点検を使用して、非常リモコンの点検ができます。

本体で動作選択スイッチを押して、「点検モード」→「運用点検」を選択します。運用点検の状態で、本機から操作して点検を行います。

「運用点検」には、以下の点検動作条件の設定機能があります。

点検用音源選択……………点検時に流す音声を選択できます。

「無し」以外に設定すると、発報、火災、非火災の音声警報は、スイッチを押しても再生されない状態になります。

無し : 点検音源は使用せず、音声警報やコールサイン、内蔵音源を通常どおり放送します。

点検入力 : 本体の、マイクドア内の点検入力からの音声を放送します。

点検音源1、2 : 本体に内蔵された点検用の2つの音源を選択し、点検に使用します
(点検音源1 : 点検用BGM、点検音源2 : 点検メッセージ)。

SP回線制御 ………………点検時に、スピーカーから音声を出力するかどうかを設定します。「OFF」の場合、スピーカー回線は制御されず、音は出力されません。

液晶画面またはモニタースピーカーで機器の動作状態を確認します。

EMG24 Vブレイク制御 ………………ローカルアンプの放送を中断せずに点検を行うかどうかを設定します。

「常時24 V」に設定すると、ローカルアンプは常に放送継続となり、点検中もローカルアンプの放送を中断することはありません。

汎用出力制御……………点検時に汎用出力制御を有効にするか無効にするかを設定します。

「無効」に設定すると、点検時に汎用出力制御は動作しません。

状態出力制御……………点検時に状態出力制御を有効にするか無効にするかを設定します。

「無効」に設定すると、点検時に状態出力制御は動作しません。

※詳細は、WL-8000A/8500Aの工事説明書 設置工事編をお読みください。



- 運用点検では、音声警報メッセージの代わりに別音源を使用したり、館内への放送や周辺システムへの制御を無効にするなど、通常とは違う動作状態となります。十分に注意して使用してください。
- 点検中は、液晶画面に **点検** と表示され、操作パネルの点検中表示灯が点灯し、点検中を知らせます。
- マイクドア内の取消スイッチを押すと、点検モードを終了できます。



- 本体の点検モードのうち、「手動点検」「操作練習」については、本機で使用できません。
これらの点検中、本機は以下の表示となり、操作は行えません。

1) 本体が「手動点検」のとき

<本体 手動点検>
放送はできません
手動点検終了→取消

2) 本体が「操作練習」のとき

<本体 操作練習>
放送はできません
操作練習終了→取消

- 運用点検中は、マイクドア内のモニター音量の変更はできません。

設定時の点検

自動点検について

ラック形非常用放送設備本体側には、コンピューターによる自動点検機能があります。

本機の液晶画面で点検結果を確認できます。異常発生時には、本機の液晶画面に「エラー」と表示し、異常内容によってはブザー音で知らせます。マイクドア内のエラースイッチを押すと、詳細内容を確認できます。またブザー停止スイッチでブザー音を止めることができます。

自動点検項目

点検項目	点検内容	点検方法	異常の通知		
			ブザー音	異常表示灯	液晶画面表示
コンピューター制御異常	非常リモコン内蔵のコンピューターの異常を監視	常時	「ピー」音	コンピューター異常表示灯点灯	—
外部機器異常	増設用出力制御ユニットの外部機器異常を監視	常時	—	—	<異常詳細表示> 外部機器異常 改画面→前次／表示終了→戻る
スピーカー回線短絡異常	スピーカー回線短絡の監視	常時／手動	—	階別作動表示灯点滅	<異常詳細表示> SP回線短絡 SP 1, 2, 3, 4, 25, 126, 340 改画面→前次／異常復旧→取消
EMG24 Vブレイク異常	EMG24 Vブレイク端子異常監視	常時	「ピー」音	—	<異常詳細表示> EMG24Vブレイク(一斉)異常 増設出力制御No 1:1, 2: 改画面→前次／異常復旧→取消 <異常詳細表示> EMG24Vブレイク(個別)異常 接点 1, 2, 3, 4, 5, 6: 改画面→前次／異常復旧→取消
非常リモコン通信回線異常	非常リモコンとの通信状態監視	常時	「ピー」音	—	<異常詳細表示> 通信異常 非常RM 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8: 改画面→前次／表示終了→戻る
マルチリモコンマイク通信回線異常	マルチリモコンとの通信状態監視	常時	—	—	マルチリモコンマイクの液晶画面に「エラーハッセイツウシンエラー」と表示される。
CONT BUS Bインターフェース回線異常	増設用出力制御ユニットとの通信監視	常時	「ピー」音	—	<異常詳細表示> 通信異常 増設出力制御 1, 2, 3, 4, 5, 6: 改画面→前次／表示終了→戻る <異常詳細表示> 通信異常 拡張／非常制御 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7: 改画面→前次／表示終了→戻る

点検項目	点検内容	点検方法	異常の通知		
			ブザー音	異常表示灯	液晶画面表示
本体マイク異常	本体側と非常リモコンの本体マイクの断線常時監視	常時	—	—	<p><異常詳細表示> 本体マイク異常 改画面→前次／表示終了→戻る</p> <p><異常詳細表示> 非常RM 1 マイク異常 改画面→前次／表示終了→戻る</p>
蓄電池異常	非常放送用、緊急・業務放送用の非常電源ユニット内の蓄電池電圧監視	24時間ごと／手動	「ピー」音	—	<p><異常詳細表示> 非常放送用蓄電池異常 本体 改画面→前次／表示終了→戻る</p> <p><異常詳細表示> 緊急／業務放送用蓄電池異常 本体 改画面→前次／表示終了→戻る</p>
CONT BUS A インターフェース回線異常	非常操作ユニットと入力マトリクスユニットまたは増設用操作ユニット間、非常リモコンと増設用操作ユニット間の接続状態監視	常時	「ピー」音	—	<p><異常詳細表示> 通信異常 増設用操作 1, 2, 3, 4, 5, 6. 改画面→前次／表示終了→戻る</p> <p><異常詳細表示> 通信異常 非常RM 1 増設非常操作 1, 2, 3. 改画面→前次／表示終了→戻る</p> <p><異常詳細表示> 通信異常 マトリクス 1, 2, 3, 4, 5, 6. 改画面→前次／表示終了→戻る</p>
非常リモコン電源ヒューズ異常	非常リモコン用電源ヒューズの断線を監視	常時	「ピー」音	—	<p><異常詳細表示> 非常RM用ヒューズ断 入出力制御ヒューズ 改画面→前次／表示終了→戻る</p>
リモコン電源異常	マルチリモコンマイク、リモコンマイクに供給する電源異常監視： 短絡検出時、系統を強制OFFして供給を止める	常時	「ピー」音	—	<p><異常詳細表示> マルチRM用電源 1 異常 入出力制御ユニット 改画面→前次／表示終了→戻る</p> <p><異常詳細表示> 一般RM用電源異常 入出力制御ユニット 改画面→前次／表示終了→戻る</p>



- ブザー音は、マイクドア内のブザー停止スイッチを押すと止まります。
- 異常があるときは、販売店または保守契約店に連絡してください。

設定時の点検

電源の点検

主電源の点検

本機の主電源表示灯が緑色に点灯していることを確認します。異常時は消灯します。

- ・常用電源 (AC100 V) がシステムに供給されていないか、本機が正常動作できない電圧の場合、消灯します。
- ・本体側の常用電源、電源制御ユニット (WU-L62) を確認してください。
- ・外部電源接続をしている場合、本機に接続されている常用電源または電源制御ユニットを確認してください。

非常電源の点検

本機の非常電源表示灯が緑色に点灯していることを確認します。異常時は赤色に点灯します。

非常電源表示灯は、本体側の非常放送用非常電源ユニット (WP-570B) の蓄電池状態を監視しています。

- ・蓄電池の電圧が、本機の正常動作が行えない電圧のときに赤色に点灯します。
- ・非常電源ユニット内の蓄電池が充電されていないか、蓄電池が寿命の可能性があります。

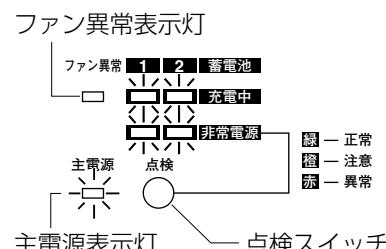
※新品の蓄電池を使用するときは、充電が十分でないため正常点灯（緑色）しない場合があります。蓄電池が使用可能な状態になるのは約24時間後です。蓄電池が満充電状態になるのは約48時間後です。

外部電源を接続している場合

外部電源を接続している場合には、以下の手順で非常リモコン側に接続されている非常電源ユニットを確認します。

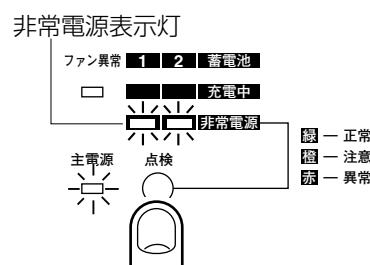
1 主電源表示灯、充電中表示灯、ファン異常表示灯を確認する

正常状態…主電源表示灯、充電中表示灯は点灯
ファン異常表示灯は消灯



2 点検スイッチを押しながら、非常電源表示灯を確認する

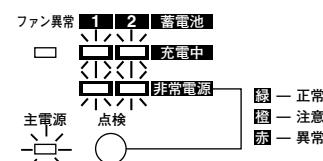
充電中表示灯は消灯します。
緑：正常電圧の範囲内
オレンジ：正常電圧の下限（蓄電池の交換時期が間近です。）
赤：動作電圧以下（蓄電池を交換してください。）



- !重要**
- 押している時間が短いと正しい点検ができませんので、5秒以上は押してください。
 - 点検時は蓄電池を消耗します。点検スイッチは10秒を超えて押さないでください。

3 点検スイッチを放す

充電中表示灯が再び点灯します。



- 非常電源ユニットの主電源表示灯が点灯しない場合は、非常電源ユニットに常用電源 (AC100 V) が供給されていない可能性があります。
- 蓄電池を1個しか使用していない場合、充電中表示灯は1つしか点灯しません。
- ファン異常灯が点灯している場合には、内部の冷却ファンが故障しています。交換が必要です。

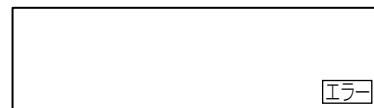
エラー表示について

エラー表示は自動点検で点検した結果、異常が検出された場合に表示されます。エラーが発生した場合の対処方法については、「自動点検について」(→66ページ) または本体の工事説明書 設置工事編をお読みください。

エラー詳細内容の確認方法

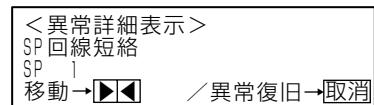
- 待機画面に**エラー**が表示されていることを確認して、マイクドア内のエラースイッチを押す

エラーの詳細が表示されます。



- 複数エラーがある場合には、[前]、[次] スイッチで画面を送って確認する

スピーカー短絡時の表示例



用語の説明

連動一斉

火災感知器の作動により、自動的に全館一斉非常放送できる状態です。

連動

火災感知器の作動により、自動的に出火階と連動階に非常放送できる状態です。

発報連動停止

火災感知器が作動しても発報放送をせず、代わりにモニタースピーカーから火災音信号を鳴らす状態です。

火災音信号

発報連動停止状態で感知器が作動したとき、モニタースピーカーから鳴るピーピーピー音です。

階別信号

どの階で感知器・発信機・非常電話などが作動したかを知らせる信号です。火災報知設備から非常用放送設備本体に供給されます。

第一報

感知器・発信機・非常電話などが作動して、はじめに火災報知設備から非常用放送設備本体に供給される信号です。その次の信号（第二報）を非常用放送設備本体が受け取った場合、火災が確認されたと判断します（火災確認信号の受信と同等）。

火災確認信号

火災を確認したことを知らせる信号です。感知器からの第一報のあと（または同時）に発信機・非常電話などが作動したとき、火災報知設備から非常用放送設備本体に供給されます。第一報として発信機や非常電話が作動したときは、階別信号とほぼ同時にこの信号が供給されます。

第1タイマータイムアップ（火災放送移行タイマー）

階別信号受信後に、設定した時間（2~5分）が経過すると、自動的に火災放送に移行することです。事前に販売店（工事店）に設定時間をご確認ください。設定時間を5分以上にする場合は、管轄消防署の確認が必要です。

第2タイマータイムアップ（一斉火災放送移行タイマー）

火災放送が出火階、連動階に放送開始されたあと、設定した時間が経過すると、自動的に全館への一斉火災放送に移行することです。設定時間はおおむね数分（非常用放送設備の場合は2~5分）としています。設定時間を5分以上にする場合は、管轄消防署の確認が必要です。

第2タイマーを0分に設定したときは、ただちに一斉火災放送に移行します。

第2タイマーをOFFに設定したときは、一斉火災放送に移行しません。

第2タイマータイムアップによる一斉火災放送中は、放送階の解除はできません。事前に販売店（工事店）に設定時間をご確認ください。

手動連動／個別手動

手動で非常起動したあとに放送階を選択した場合、設定により次の2通りの動作になります。

手動連動：スイッチを押した階と連動階が選択される

個別手動：スイッチを押した階のみが選択される

3線式配線と音量調整器*

3線式スピーカー配線の場合、業務放送などは音量調整器で設定（OFF／1／2／3など）した音量で放送されますが、非常放送では最大音量で放送されます。非常放送を行う設備では、通常3線式で配線されます。

* スピーカー音量調整器の当社名称は、"アッテネーター"（スピーカー取り付けタイプ）または "ボリュームコントローラー"（壁埋め込み・ボックス取り付けタイプ）です。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店または保守契約店へご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
本機から放送ができない	<ul style="list-style-type: none">放送階選択スイッチは押されていますか？ 放送先を選択すると、該当する階別作動表示灯が緑色に点灯します。	12
	<ul style="list-style-type: none">優先度の高いほかの周辺機器から放送されていませんか？ 本機よりも優先度が高く設定された放送機器や音源機器から放送している場合、本機からの放送はできません。 液晶画面にシステムで放送中の機器名称が表示されます。 例) 	—
接続した音源機器から放送できない	<ul style="list-style-type: none">上記「本機から放送ができない」をご参照ください。	—
	<ul style="list-style-type: none">音源機器の電源は入っていますか？ 音源機器の電源を確認してください。	—
	<ul style="list-style-type: none">音源機器の再生ボタンは押しましたか？ 再生ボタンを押して再生を開始してください。システム構成によっては、プログラムコントローラーなど、時刻に同期して自動再生される場合もあります。	—
	<ul style="list-style-type: none">CDやテープなどの再生メディアは挿入されていますか？ 再生メディアを挿入してください。	—
モニタースピーカーからの音が小さい（大きい）	<ul style="list-style-type: none">モニタースピーカーの音量は適切に調整されていますか？ モニタースピーカーの音量は、本機のマイクドア内にあるモニター音量スイッチで調整できます。	13

必要なとき

仕様

●基本仕様

電源	DC24 V 330 mA (本体または電源制御ユニット、非常電源ユニットより供給)	
ユニット寸法	幅450 mm 高さ221 mm 奥行き59 mm	
重量	約4.9 kg	
仕上げ	AVライトグレイ塗装 (マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色)	
自火報連動モード	連動 (出火階、連動階) 連動一斉 (一斉制御)	
発報連動モード	発報連動／発報連動停止	
非常放送制御	操作	非常起動スイッチ 非常復旧スイッチ 火災放送スイッチ 非火災放送スイッチ 地震放送停止スイッチ
	表示灯	主電源表示 (緑) 非常電源表示 (緑／赤) 連動一斉表示 (赤) 連動表示 (赤) 発報連動停止表示 (赤) 発報放送表示 (橙) 火災放送表示 (赤) 非火災放送表示 (緑) 火災表示 (赤) 出力レベル (5ポイントLED) コンピューター異常表示 (赤) メッセージ再生表示 (緑) 点検中表示 (緑) 地震放送表示 (橙)
選局制御	操作	放送階選択スイッチ 緊急放送1、2、3スイッチ 優先一斉放送スイッチ (アッテネーター無効) 一般一斉放送スイッチ (アッテネーター有効) 放送復旧スイッチ コールサイン1、2スイッチ
	表示灯	階別作動表示 (作動)／回線短絡表示 (緑) 出火階表示 (赤)
液晶表示	非常放送操作手順、放送状態、異常表示 (通信異常、回線短絡、蓄電池異常) 液晶表示仕様 15文字×4行	

必要なとき

●音声部

周波数特性	ライン系 50 Hz～15 kHz -2±3 dB マイク系 100 Hz～10 kHz -2±3 dB	
ひずみ率	1%以下 (1 kHz基準)	
非常／業務兼用マイク入力	-58 dBV 10 kΩ AGC付 (出荷時-52 dBV) 音量調整 (内部) (マイクスイッチ付)	
ライン入力	-2 dBV/-65 dB 10 kΩ 平衡	
モニター入力	0 dBV 5 kΩ 平衡×1 端子台	
ライン出力	0 dBV 600 Ω 平衡×1 端子台	
モニタースピーカー	出力300 mW 8Ω (警報音および操作音ブザー含む) モニター音量調整、ハウリング防止付	

●接続部 端子台

電源入力	DC24 V 0 V
制御	EMG、URG、CPU OFF
通信	LB+、LB- LA+、LA- RSA、RSB、RSG×2
本体との接続	5対（10本）ツイストペアケーブルまたは 6対（12本）ツイストペアケーブル（停電時の緊急放送を行う場合）

●マイクドア内

カーソルキースイッチ
取消（点検終了）スイッチ
戻るスイッチ
確定スイッチ
エラースイッチ
モニター音量調整スイッチ
ブザー停止スイッチ
蓄電池点検スイッチ
コンピューター制御入一切スイッチ
前スイッチ
次スイッチ

●増設用操作ユニット接続部（専用コネクター）

CONT BUS A 1系統

●専用電源接続部

POWER CONT（10ピンコネクター）×1系統
POWER CONT緊急（10ピンコネクター）×1系統

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■ まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名

電 話 () -

お買い上げ日 年 月 日

修理を依頼されるとき

71ページの表にしたがってご確認のあと、異常のあるときは、ただちに販売店または保守契約店へご連絡ください。

●製品名 非常リモコン

●品 番 WR-EC500A

●故障の状況 できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

必要なとき

高所設置製品に関するお願い

安全にお使いいただくために、1年に1回をめやすに、販売店または施工業者による点検をおすすめします。

本機を高所に設置してお使いの場合、落下によるけがや事故を未然に防止するため、下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。
詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？
● 本機を使用せずに放置している。
● 取付ねじがゆるんだり、抜けたりしている。
● 取付部がぐらぐらしたり、傾いたりしている。
● 本機および取付部に破損や著しいさびがある。



直ちに使用を中止してください
事故防止のため、必ず販売店または施工業者に撤去を依頼してください。
事故防止のため、必ず販売店または施工業者に点検を依頼してください。

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い替えの検討をお願いします。
詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？
● 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
● 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
● 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
● 電源を入れても、音が出てこない。
● その他の異常・故障がある。



直ちに使用を中止してください
故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店または施工業者に点検や撤去を依頼してください。

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリー  0120-878-410 受付：9時～17時30分（土・日・祝日は受付のみ）
※携帯電話からもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは https://connect.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

パナソニック エンターテインメント & コミュニケーション株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号